

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-4

< 第32週 > マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多い / その他最新動向



注目すべき感染症
P.5-7

< 腸管出血性大腸菌感染症 >
第32週の報告数は140例で、第32週までの累積報告数は1,867例である



病原体情報
P.8-12

エコーウイルス18型 2006年 / インフルエンザウイルス 2005/06シーズン / ヒトから検出されているVero毒素産生性大腸菌 2006年



速報
P.13-15

エコーウイルス18型の流行 - 宮崎県 / 新生児室におけるエコーウイルス18型の感染事例 - 愛知県 / 中国渡航後に肺炎を発症した患者からのインフルエンザウイルスA/H1N1型の検出 - 埼玉県



海外感染症情報
P.16-18

中国での鳥インフルエンザ流行状況 / インドネシアでの鳥インフルエンザ流行状況



感染症の話
P.19

< 今週はお休みです >



読者のコーナー
< 今週は該当記事はありません >



グラフ総覧(32週)
P.20-26



32週のデータ
P.27-38



発生動向総覧

2006年4月からの報告システムの変更に伴い、疾病の並び順を一部変更しました。

< 第32週コメント > 8月18日集計分

全数報告の感染症

注意:これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が集計の期日以降に届くこともあります。それらについては発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることとなります。宜しく御理解下さい。

感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを示します。

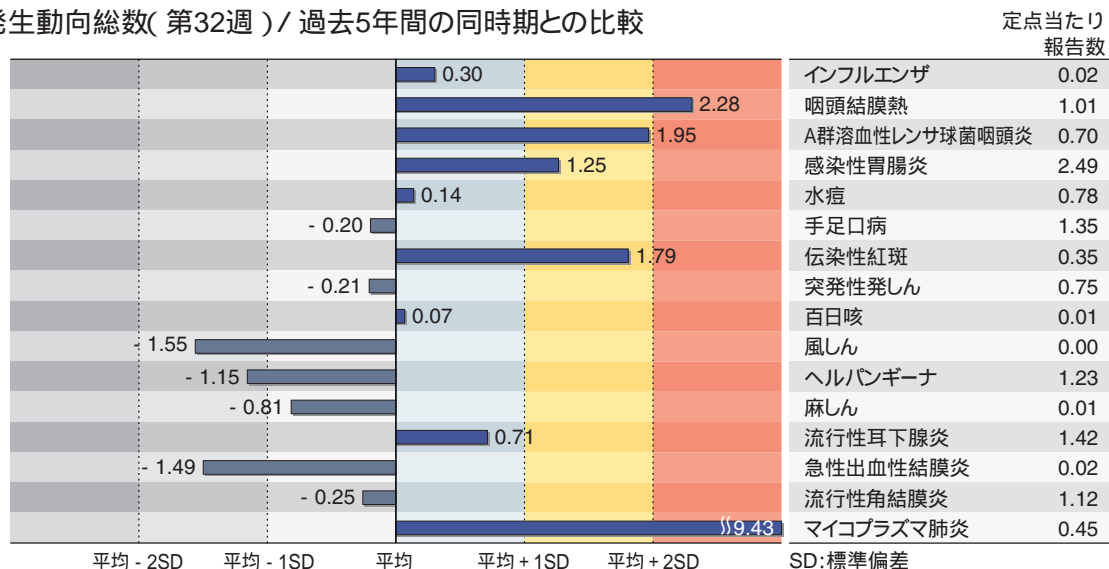
- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 細菌性赤痢 12例(感染地域: 神奈川県1例、タイ5例、インド3例、フィリピン1例、エジプト1例、トルコ/パキスタン1例)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 140例(うち有症者87例、HUS 4例)
 感染地域: すべて国内
 国内の多い感染地: 大阪府(11例) 熊本県(11例) 石川県(9例) 愛知県(9例)
 年齢群: 10歳未満(54例) 10代(26例) 20代(26例) 30代(10例) 40代(4例) 50代(7例) 60代(4例) 70歳以上(9例)
 血清型・毒素型: O157 VT1・VT2(46例) O157 VT2(41例) O26 VT1(31例) O103 VT1(9例) O111 VT1(3例) O121 VT2(2例) O91 VT1(1例) O128 VT1(1例) その他/不明(6例)
- 4類感染症: E型肝炎 1例(感染地域: 北海道、感染源: プタ肉/ホタテ)
 エキノコックス症 1例(種不明__感染地域: 北海道)
 マラリア 1例(原虫種不明__感染地域: ナイジェリア)
 レジオネラ症 9例(肺炎型8例、ポンティアック型1例)
 年齢群: 50代2例、60代6例、90代1例
 感染地域: 長野県2例(うち1例温泉) 岩手県1例、埼玉県1例、新潟県1例、静岡県1例(温泉) 滋賀県1例、大阪府1例、国内(都道府県不明)1例
- 5類感染症: アメーバ赤痢 7例(腸管アメーバ症6例、腸管外アメーバ症1例)
 感染地域: すべて国内
 感染経路: 性的接触2例(とともに同性間) 不明5例
- ウイルス性肝炎 6例
 B型5例(感染経路: 性的接触3例(すべて異性間) 不明2例)
 C型1例(感染経路: 性的接触(異性間))
- 後天性免疫不全症候群 14例(無症候10例、AIDS 4例)
 感染地域: 国内13例、国外(国不明)1例
 感染経路: 性的接触13例(異性間6例、同性間5例、不明2例) 不明1例
- 梅毒 5例(早期顕症1期3例、無症候2例)

(補)他に報告遅れとして、腸チフス1例(感染地域: フィリピン) 急性脳炎1例(病原体不明 .80代) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例(血清群: A群 .30代、死亡) バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例(遺伝子型: VanA__菌検出検体: 血液、便)などの報告があった。

定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

発生動向総数(第32週) / 過去5年間の同時期との比較



当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)との差をグラフ上に表現した。

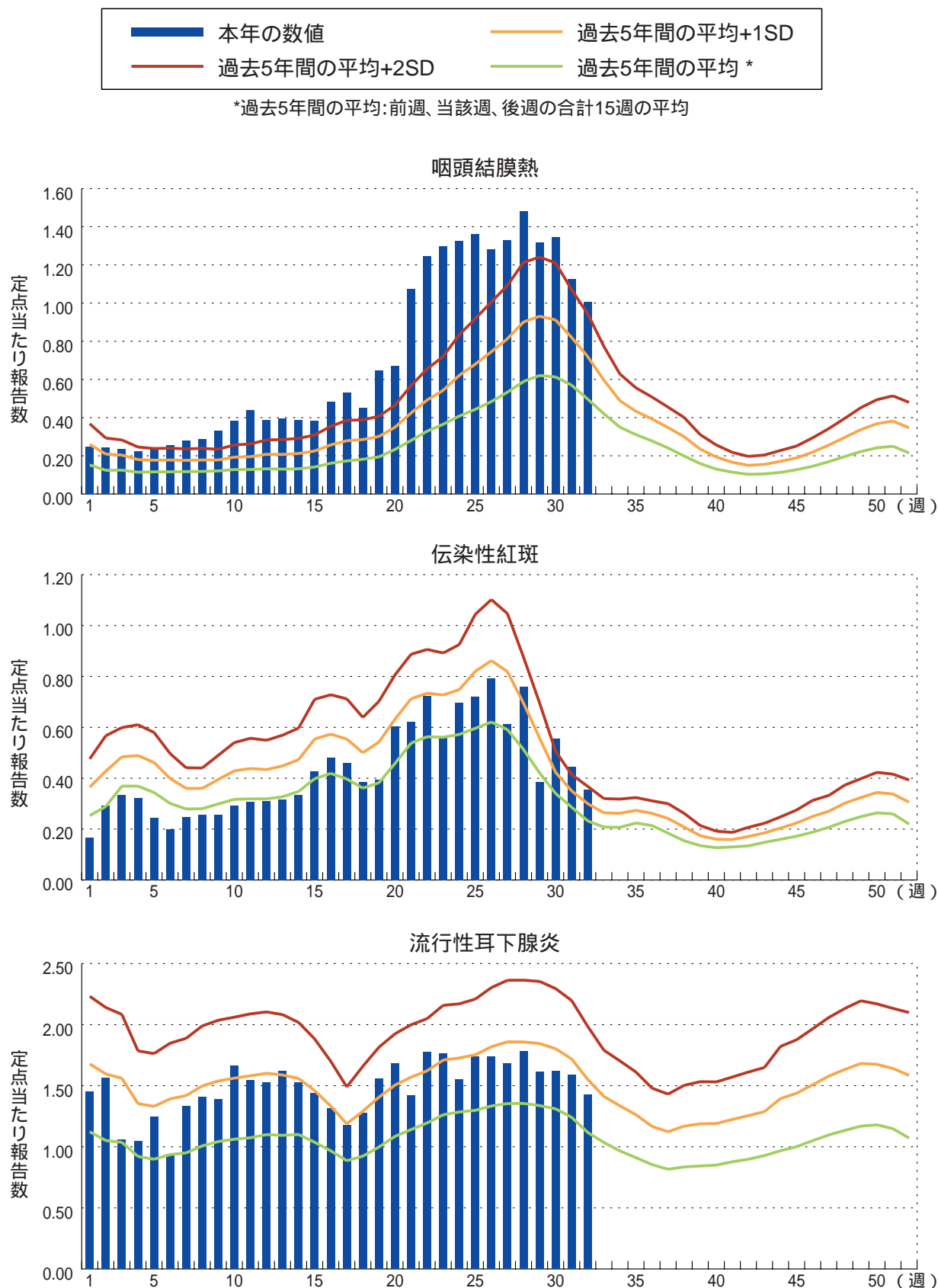
インフルエンザ : 定点当たり報告数は第22週以降、減少が続いている。都道府県別では沖縄県(0.64)、宮崎県(0.39)、青森県(0.09)が多い。

小児科定点報告疾患 : RSウイルス感染症は73例の報告があり、報告数は増加した。年齢別では、1歳以下の報告数が全体の84%を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は2週連続して減少したが、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では宮崎県(3.8)、奈良県(2.0)、三重県(1.8)、佐賀県(1.7)が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は第25週以降、減少が続いているが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では三重県(1.3)、宮崎県(1.3)、秋田県(1.3)が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は2週連続して減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では福井県(7.0)、大分県(6.4)、宮崎県(4.8)が多い。水痘の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では青森県(1.7)、徳島県(1.5)、大分県(1.2)が多い。手足口病の定点当たり報告数は2週連続して減少した。都道府県別では福井県(8.3)、石川県(4.9)、長野県(4.6)が多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数は2週連続して減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では愛知県(0.76)、宮崎県(0.66)、静岡県(0.63)が多い。百日咳の定点当たり報告数は微増した。都道府県別では千葉県(0.05)、兵庫県(0.04)が多い。風しんの定点当たり報告数は減少した。都道府県別では岡山県(0.04)、島根県(0.04)が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は第28週以降、減少が続いている。都道府県別では青森県(3.8)、高知県(2.8)、長野県(2.7)が多い。麻しんの定点当たり報告数は横ばいであった。都道府県別では静岡県(0.03)、広島県(0.03)、愛知県(0.02)、兵庫県(0.02)が多い。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は2週連続して減少した。都道府県別では新潟県(4.3)、鹿児島県(3.9)、長野県(3.4)が多い。

基幹定点報告疾患 : マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別では愛知県(6.0)、大阪府(3.6)、千葉県(1.4)が多い。成人麻しんは2例(岐阜県、大阪府)の報告があった。

(補)大阪府からの風しんの報告は取り消し予定である。

図. 主要定点把握疾患の過去5年間との週別比較(2006年第1～32週)
 青のバーで示す本年の定点当たり報告数が赤のラインを超えているときには、過去5年間の週と比較してかなり多いことを示す。





注目すべき感染症

腸管出血性大腸菌感染症

2006年の腸管出血性大腸菌感染症の報告数は第15週(27例)から増加が認められ、第20週(59例)に50例を超え、21 ~ 25週は80例前後で推移した。第26週(137例)に100例を超え、第27 ~ 29週は130例台で推移し、第30週(237例)はさらに増加して200例を超えたが、第31週は171例と減少し、第32週は140例である。本年第32週までの累積報告数は1,867例であるが、今までのところ例年(2000年1,739例、2001年2,779例、2002年1,942例、2003年1,282例、2004年1,976例、2005年1,846例)と比べ、特に多いとは言えない(図1)。

第32週に診断された140例についてみると、報告の多かった都道府県は大阪府(11例)、熊本県(11例)、愛知県(10例)、石川県(9例)、宮崎県(8例)であった(図2a)。そのうち熊本県の11例は保育園における集団発生であり、他に宮崎県、佐賀県においても保育施設に関連する集団発生が認められている。また、石川県の8例は飲食店に関連した集団発生である。2006年4月から、国内を感染地域とする場合に、県名などの詳細情報を届け出るようになったが、第32週に感染地域として多かった都道府県は、報告の都道府県とほぼ同様で、大阪府(11例)、熊本県(11例)、石川県(9例)、愛知県(9例)、宮崎県(8例)であった(図2b)。性別では男性73例、女性67例であり、年齢階級別(10歳毎)では0 ~ 9歳(54例)が最も多く、39%を占めた。また、有症状者は87例で、無症状病原体保有者が53例であった。無症状病原体保有者は、食品産業従事者の定期検便によって発見される場合もあるが、多くは探知された患者と食事を共にした者や、接触者の調査などによって発見される場合が多い。分離された菌の血清型・毒素型別では、O157 VT1・VT2(46例)、O157 VT2(41例)、O26 VT1(31例)の順に多かった。

第1 ~ 32週の累積報告数1,867例についてみると、報告の多かった都道府県は、大阪府(167例)、東京都(143例)、愛知県(110例)、福岡県(103例)、群馬県(100例)である(図3)。性別では男性895例、女性972例であり、年齢階級別(10歳毎)では0 ~ 9歳(751例)が最も多く、40%を占めている。性別・年齢群別にみると、0 ~ 9歳及び10 ~ 19歳では男性が女性より多く、それ以上の年齢群では女性が男性より多い。また、有症状者は1,235例(66%)で、無症状病原体保有者は632例である。性別・年齢群別に症状の有無をみると、男女ともに、30 ~ 50代では無症状病原体保有者が多く、それ以外では有症状者が多い(図4)。分離された菌の血清型・毒素型では、O157 VT1・VT2(786例)、O157 VT2(398例)、O26 VT1(386例)の順に多かった。

溶血性尿毒症症候群(HUS)は報告遅れ分や追加報告を含み、第32週に5例の報告があり、累積では50例となった。2006年4月から、HUS発症例の届出は、病原体の分離ができない症例であっても、便から直接のベロ毒素の検出や、血清抗体の検出によって届出対象となった。50例のうち、便から直接のベロ毒素の検出によるものが1例、血清抗体の検出によるものが11例届けられた。死亡については、第32週までに3例の報告があった。しかし、HUSなどの合併症や死亡については、届け出時点以降での発生が十分反映されていない可能性があり、発生があった場合の追加・修正報告をお願いしている。

2006年も保育施設での集団発生が散見されている他、飲食店や展示動物に関連した集団発生もみられている。本症は、今後も発生の多い状況が続くと予想され、その発生動向には注意が必要である。食品の取り扱いには十分注意して食中毒の予防を徹底するとともに、手洗いの励行などにより、ヒトからヒトへの二次感染を予防することが大切である。また保育施設においては、特にオムツ交換時の手洗い、園児に対する食前の手洗い指導を徹底し、簡易プールなどの衛生管理にも注意を払う必要がある。

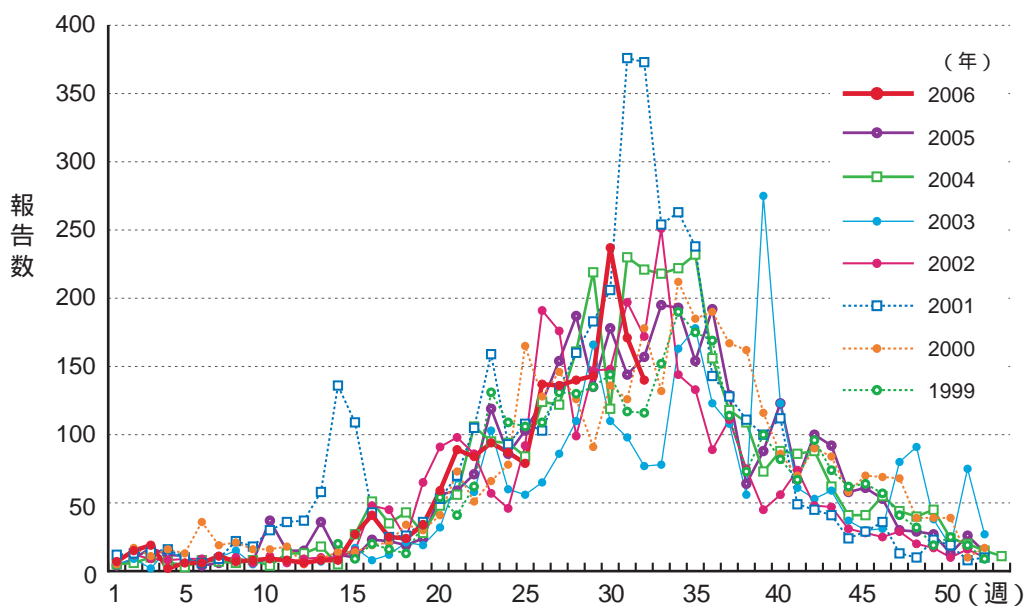


図1. 腸管出血性大腸菌感染症(無症状病原体保有者含む)の年別・週別発生状況

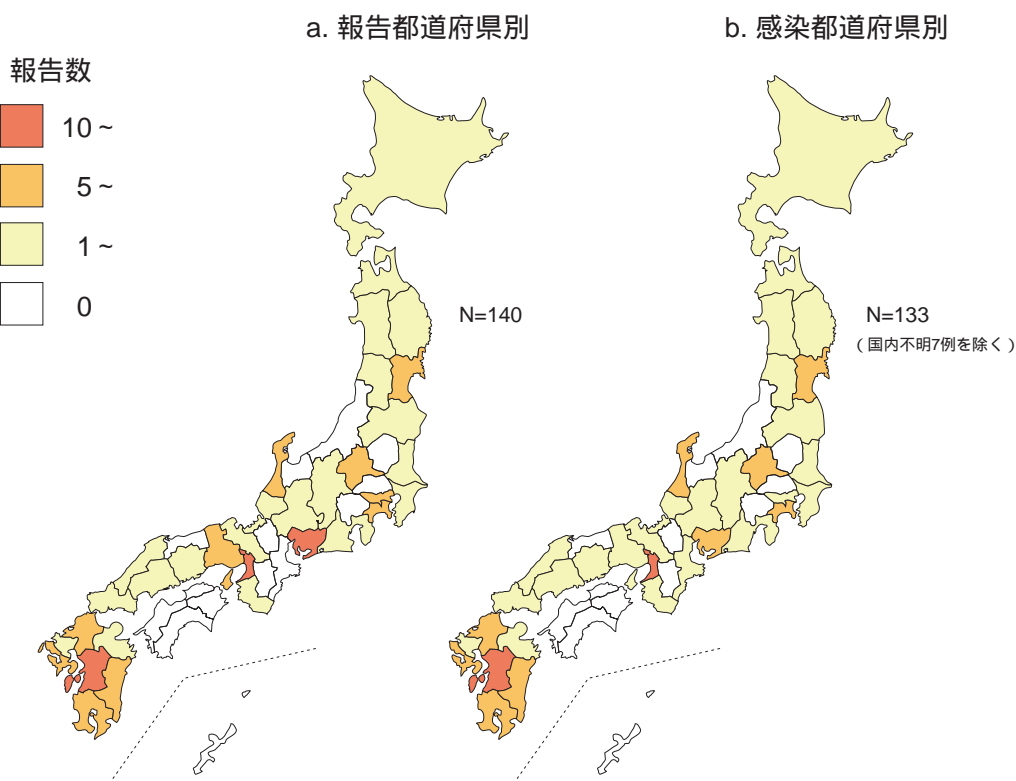


図2. 腸管出血性大腸菌感染症の都道府県別報告・感染状況(2006年第32週)

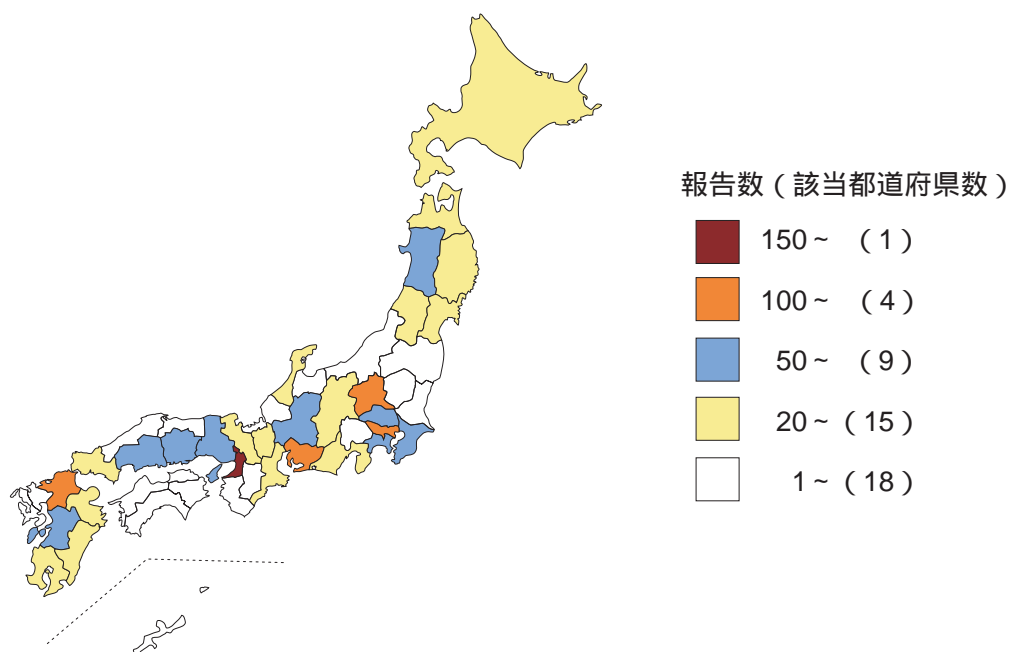


図3. 腸管出血性大腸菌感染症の都道府県別報告状況(2006年第1 ~ 32週)

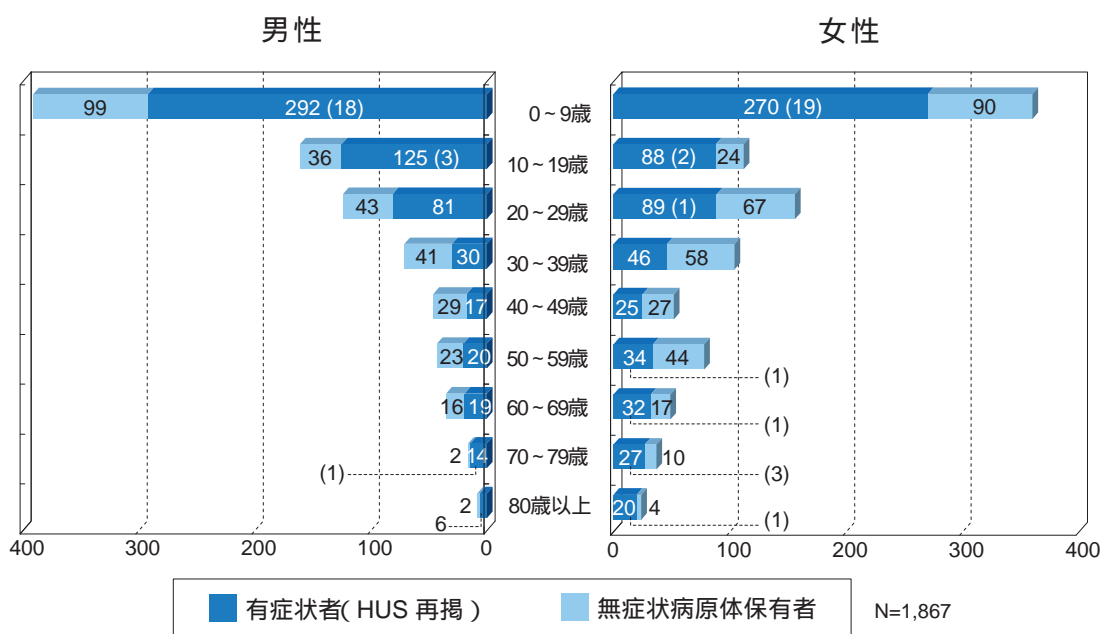


図4. 腸管出血性大腸菌感染症の性別・年齢群別・症状の有無別報告数(2006年第1 ~ 32週)



病原体情報

* グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。

各都道府県市の地方衛生研究所(地研)からの検出報告です。週別の報告数は、病原体が分離・検出された検体の採取日による週ごとの報告数です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

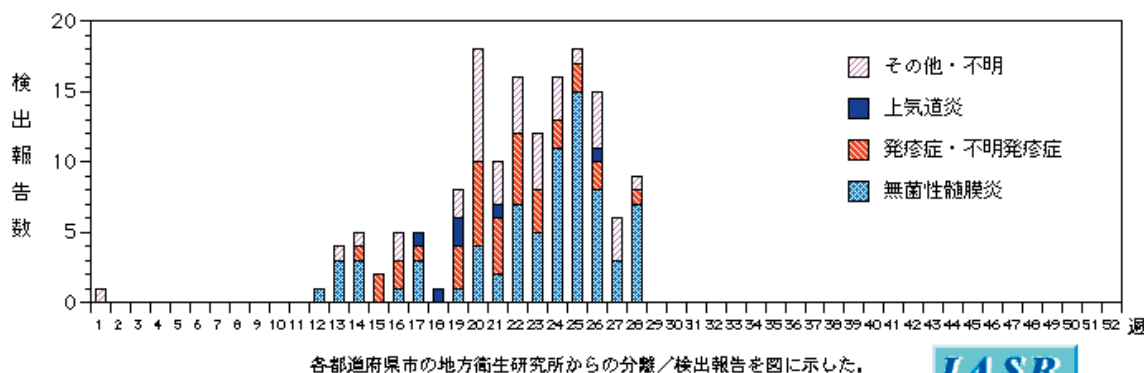
(2006年8月17日現在報告分)

エコーウイルス18型 2006年

第19週以降、エコーウイルス18型の報告が増加している。西日本を中心に無菌性髄膜炎74件、発疹症・不明発疹症34件、上気道炎6件、インフルエンザ、感染性胃腸炎、手足口病、ヘルパンギーナ、夏かぜ各3件、不明熱2件など、計152件が報告されている(本号13～14ページ「速報」参照)。

週別Echovirus 18分離・検出報告数、2006年

(病原微生物検出情報: 2006年8月17日現在報告数)



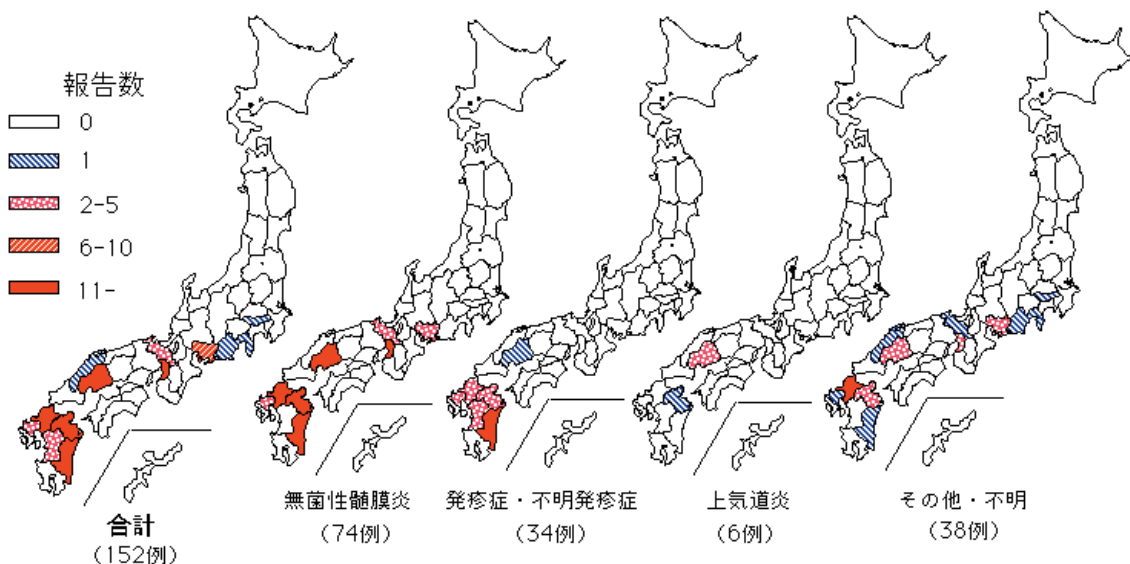
各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

都道府県別診断名別Echovirus 18分離・検出報告状況、2006年

(病原微生物検出情報: 2006年8月17日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

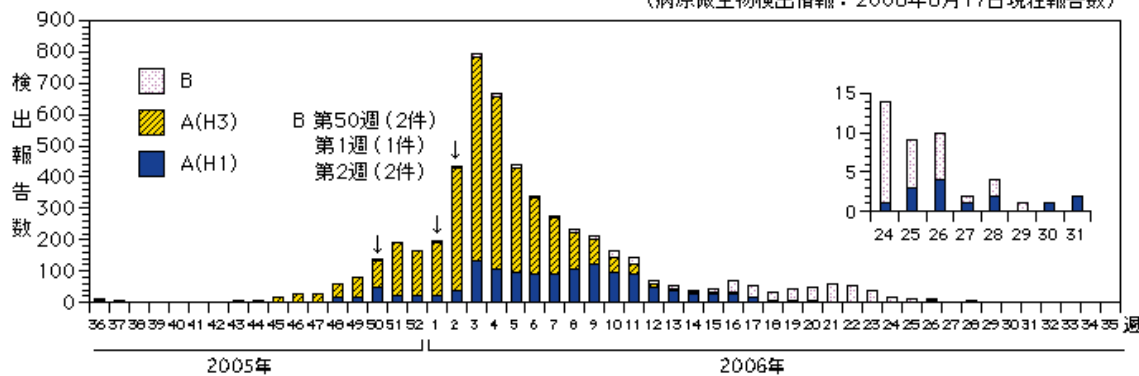
インフルエンザウイルス 2005/06シーズン

夏季になってもインフルエンザウイルスの報告が続いており、A(H1)型は第28週に2件、第30週に1件、第31週に2件、B型は第28週に2件、第29週に1件の検出が報告されている。

このうち、A(H1)型3件は中国(第28週、第31週)およびタイ(第31週)からの帰国者から分離されている(本号15ページ「速報」参照)。

週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数、2005/06シーズン

(病原微生物検出情報：2006年8月17日現在報告数)

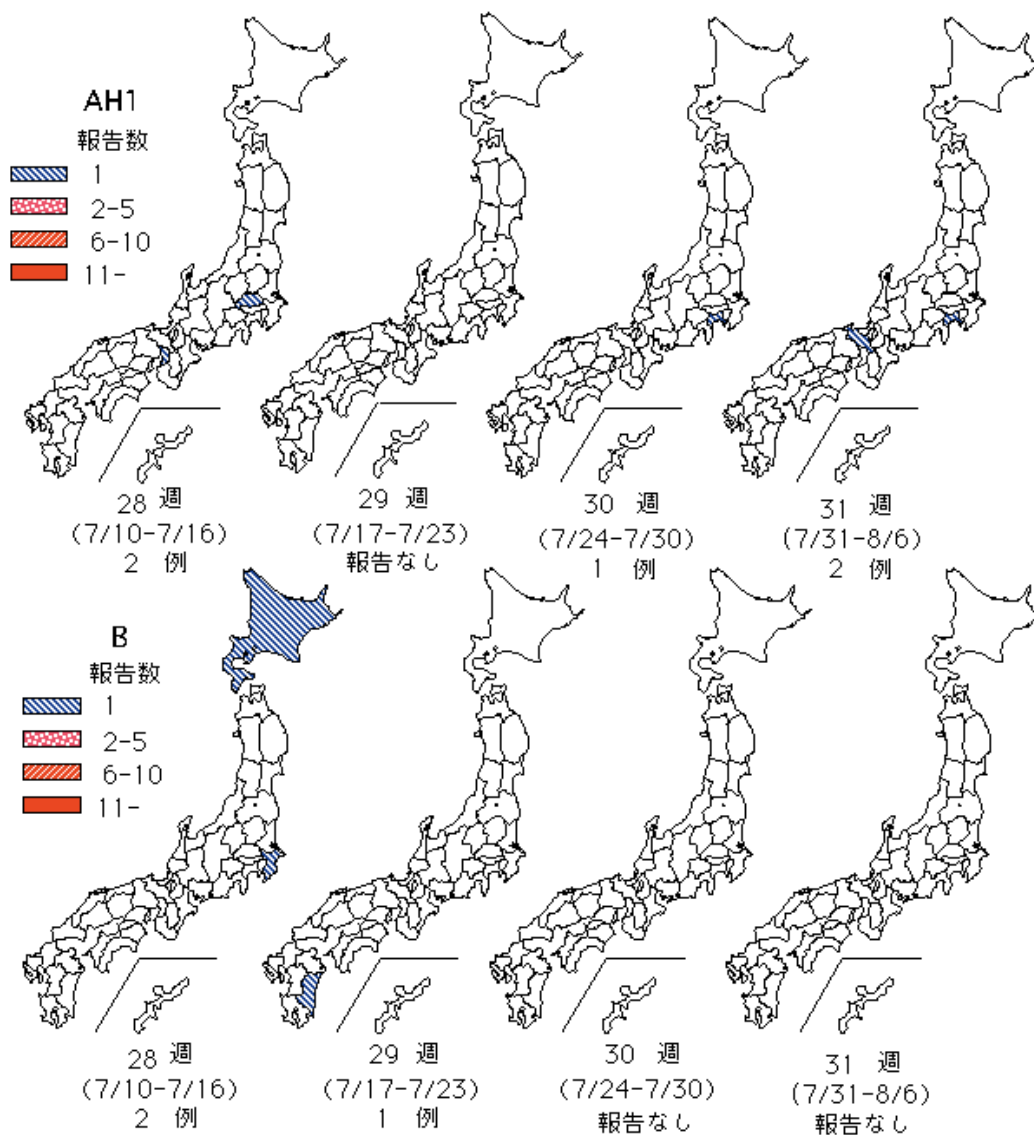


各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

都道府県別インフルエンザウイルス分離・検出報告状況、2005/06シーズン第28週～第31週
 (病原微生物検出情報：2006年8月17日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した。



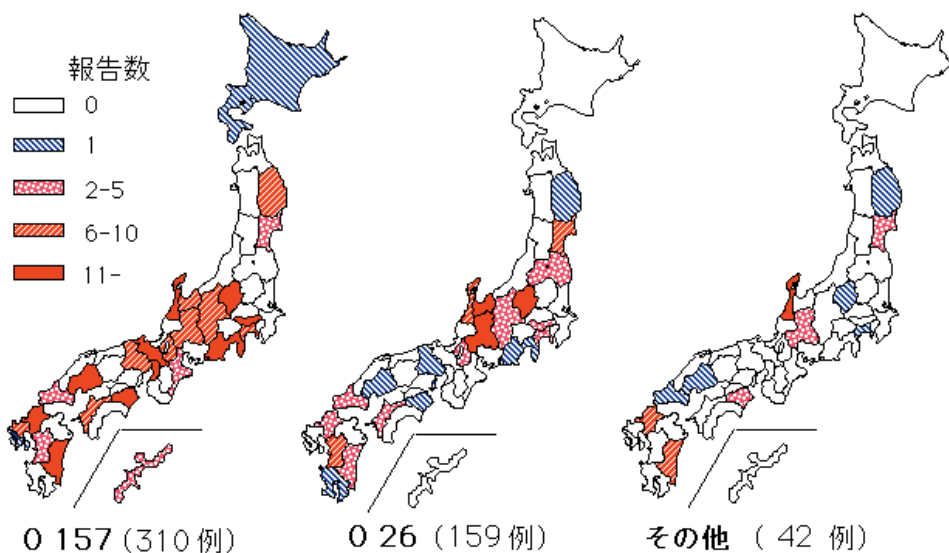
Infectious Agents Surveillance Report

ヒトから検出されているVero毒素産生性大腸菌 2006年

2006年の検出総数は511件で、O157が310件、O26が159件、その他の血清型が42件報告されている。第29週以降では、第30週に岐阜県からO26による保育所での集団発生事例が報告されている。

都道府県別Vero毒素産生性大腸菌分離報告状況、2006年

(病原微生物検出情報：2006年8月17日現在報告数)



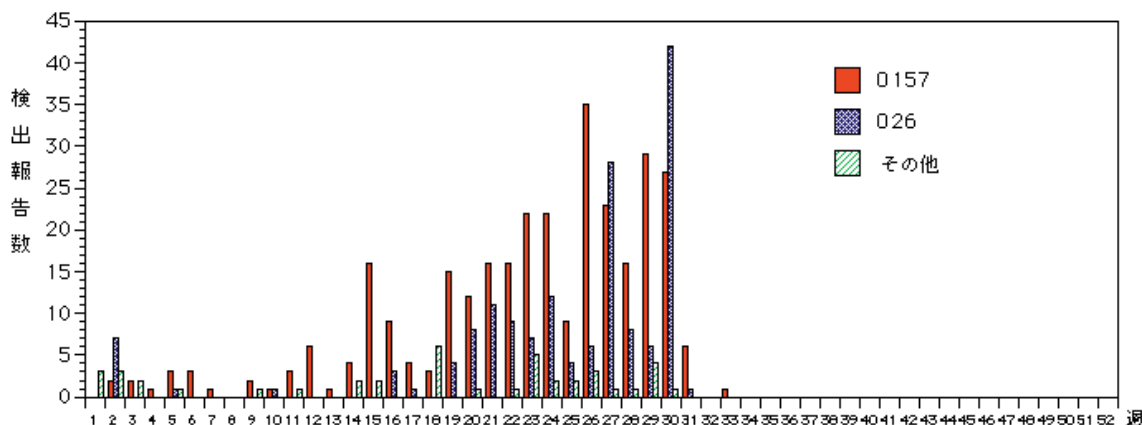
各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

週別Vero毒素産生性大腸菌分離報告数、2006年

(病原微生物検出情報：2006年8月17日現在報告数)



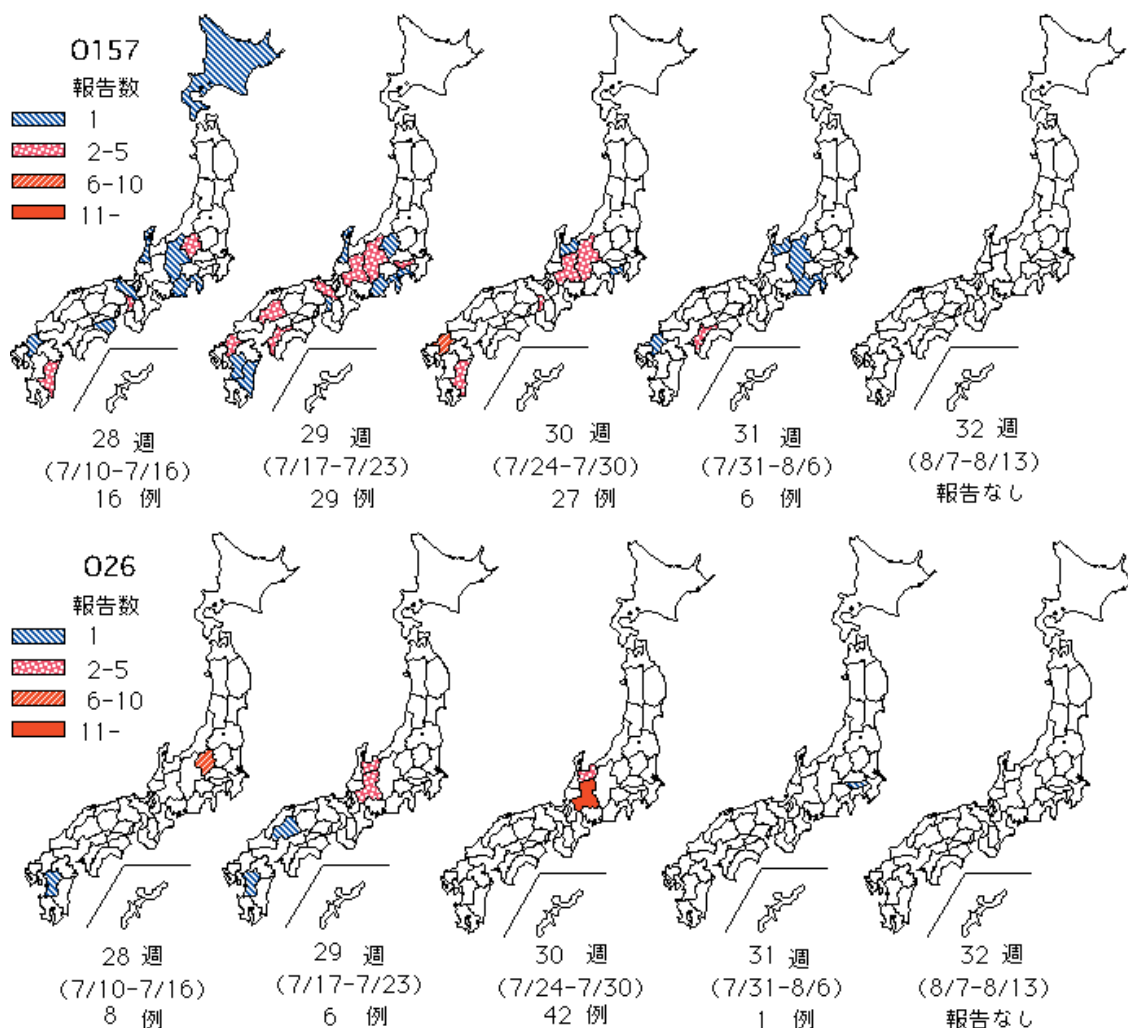
各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

都道府県別Vero毒素産生性大腸菌分離報告状況、2006年第28週～第32週

(病原微生物検出情報：2006年8月17日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report



エコーウイルス18型の流行 - 宮崎県

宮崎県内の感染症発生動向調査事業における1997年以降のウイルス検出統計では、1998年(分離株数12株)、1999年(同4株)、2000年(同8株)、2001年(同49株)にエコーウイルス18型(E18)が分離されている。その後、2005年に5株が分離され、2006年第13 ~ 27週には、発疹および無菌性髄膜炎に関する検査依頼がそれぞれ53検体および30検体あり、そのうち35検体(発疹を呈した患者20名、髄膜炎を呈した患者7名、発疹と髄膜炎の両方を呈した患者1名、その他3名)からE18が分離された。

35検体のうち、26検体は咽頭ぬぐい液、8検体は髄液、1検体は便であった。ウイルス分離にはCaCo-2、RD-18S、HEp-2、Veroの4種類の細胞を用い、CaCo-2細胞とRD-18S細胞でCPEが観察され、市販の抗血清を用いた中和反応で同定を行った。

31名の患者の主な症状は、発熱が30例、発疹(丘疹、紅斑)が21例、髄膜炎が8例、上気道炎が4例、胃腸炎(下痢)が2例であった。発疹を呈した20名の患者の年齢は0 ~ 6歳(平均1.5歳)で、無菌性髄膜炎を呈した患者の年齢は3歳、5歳(2名)、6歳(2名)、8歳、11歳で、平均6.3歳であった。また、発疹と無菌性髄膜炎の両方を呈した患者1名の年齢は1歳であった。

E18は1987 ~ 1988年に35都府県市から検出され、1989年2月号の病原微生物検出情報の<特集>でE18の流行が報告¹⁾されている。今年も、北九州市(IASR 27:153, 2006)や大分県(<http://idsc.nih.gov/iasr/rapid/pr3192.html>)からの報告があり、今年の春 ~ 夏季の発疹や無菌性髄膜炎の主要な原因ウイルスであると思われる。E18感染症の主な臨床症状は、低年齢(0 ~ 2歳)では発疹、年長児では無菌性髄膜炎が多い傾向にある。過去に同様な報告²⁻⁴⁾があり、抗体保有状況と年齢が主な要因と考えられている。

【文献】

- 1) 国立予防衛生研究所, 病原微生物検出情報 10(2): 21&44, 1989
- 2) 佐藤宏康等, 臨床とウイルス 17(1): 84-88, 1989
- 3) 河原信彦等, 臨床とウイルス 18(2): 230-234, 1990
- 4) 栄 賢司, 感染症誌 66(12): 1670-1681, 1992

宮崎県衛生環境研究所

岩切 章 三浦美穂 山本正悟 井料田一徳 若松英雄

(IASR 2006年9月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)

新生児室におけるエコーウイルス18型の感染事例 - 愛知県

エコーウイルス18型(E18)は無菌性髄膜炎、麻痺、発疹症などの病因であり、わが国においては1988年、1998年に全国的な流行を起こしている。2006年も西日本を中心に分離が報告されていた¹⁻³⁾が、愛知県内の特定一病院内新生児ICUにおいて集団感染が発生した。

患者は新生児ICU入院中の低出生体重児7名である。2006年5月、相次いで無呼吸発作、哺乳力低下、発熱などの症状を呈したため、ウイルス分離用検体として糞便と咽頭ぬぐい液が採取された。検体をVero、HeLa、RD-18S細胞に接種後2週間、新たな細胞に再接種し、さらに2週間観察した。分離株は、国立感染症研究所から分与されたエンテロウイルス用プール血清、および単味血清を用いた中和反応により、同定・型別された。

7名中5名(71%)から、RD-18S細胞にエンテロウイルス様の変性効果をおこす因子が6株分離され、すべてE18と同定された。ウイルス分離陽性6検体中5検体は糞便であったが、1名(患者No.3)は咽頭ぬぐい液からもE18が分離された。ウイルス分離陽性児5名の検査材料は0 ~ 3病日に採取されたが、一方陰性となった2名の検体は3 ~ 4病日に採取されていた。

7名の患者は髄膜炎や重篤な脳脊髄炎症状を呈することなく、全員速やかに回復し、経過中、皮疹や粘膜疹は認められなかった。

一般にエコーウイルス(E)は不顕性感染が多く、発症しても良好な経過をとるが、E6、E11などの血清型では、抗体陰性の母から出生した新生児感染死亡例の報告もある。一方、E18は年少児には発疹症、年長児に無菌性髄膜炎を起すウイルスとして知られており、E18の新生児感染は、年長児に比して軽症に経過する可能性が考えられた。

全例が比較的軽症に経過した理由として、患児がE18に対する抗体を保有していた可能性は否定できない。2004年に行った愛知県流行予測調査事業では、E18に対する年齢別血清抗体保有率は、10 ~ 19歳が40%、20 ~ 29歳が50%、30 ~ 39歳が27%であった。今回の新生児E18感染では、患者および母の抗体調査はしていないが、発症1カ月以上前ではあるがガンマグロブリン投与歴のある患児2名のみがウイルス分離陰性であった点には、抗体の影響が考えられる。

愛知県では1988年、1998年、2003年にE18が流行し、無菌性髄膜炎が多発した。今夏は、県内の検査定点からの検体でE18分離がまだみられない状況において、新生児集団発生が起こった。直近の流行(2003年)は前回の流行と比べ小規模であったため、本年の患者増加が危惧される。

【文献】

- 1) 村瀬浩太郎等、IASR 27:153, 2006
- 2) 吉田省三等、IASR速報 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/rapid/pr3192.html>
- 3) 岩切 章等、IASR速報 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/rapid/pr3194.html>

豊橋市民病院小児科

幸脇正典 小山典久

愛知県衛生研究所微生物部

山下照夫 伊藤 雅 長谷川晶子 小林慎一 秦 眞美 田中正大 皆川洋子

(IASR 2006年9月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)

中国渡航後に肺炎を発症した患者からのインフルエンザウイルスA/H1N1型の検出 - 埼玉県

埼玉県内における2005/06シーズンのインフルエンザウイルス分離は、第17週のB型ウイルス (IASR 27:151, 2006) が最終であったが、今回、第28週に採取された中国渡航後の肺炎症例の検体からA/H1N1ウイルスが検出されたので、概要を報告する。

患者は55歳男性で、2006(平成18)年7月6～9日の間に中国広東省深圳地区を旅行後に帰国した。渡航中に鳥との接触は無かった。9日より咳、血痰等の症状が出現し、翌日に発熱(38)し、受診した医療機関において肺炎と診断され、入院した。医療機関でインフルエンザ迅速診断キットにより、A型インフルエンザ陽性が確認された。

WHOによれば、上述の深圳地区において6月に、H5N1亜型鳥インフルエンザのヒト感染例が非公式ながら報告されている。本症例の患者は鳥やH5感染者との接触歴は無かったが、念のために、H5ウイルスも含めたインフルエンザウイルスの検査を実施することとして、当該医療機関管轄保健所により、衛生研究所へ検体(咽頭ぬぐい液および鼻腔ぬぐい液)が搬入された。

当所では「病原体検査マニュアル高病原性鳥インフルエンザ(2006年6月改定)」に基づき、A型M遺伝子、H5、H7、H1、およびH3亜型用プライマーを用いてOne Step RT-PCR法による検査を実施し、咽頭ぬぐい液検体からA型M遺伝子、およびH1遺伝子の目的バンドを検出した。それらはダイレクトシーケンスにより、A型M遺伝子およびH1遺伝子であることを確認した。他の遺伝子は不検出であった。

次に、MDCK細胞によるウイルス分離を試みたところ、咽頭ぬぐい液検体を接種した細胞においてインフルエンザウイルス様のCPEを認めたので、その培養上清を用いて、国立感染症研究所インフルエンザウイルス室から配布された2005/06用同定キットによる赤血球凝集抑制(HI)試験を実施した。その結果は、A/New Caledonia/20/99(ホモ価640)抗血清に対してHI価320、A/New York/55/2004(同1,280)、B/Shanghai(上海)361/2002(同640)、B/Brisbane/32/2002(同5,120)の各抗血清に対してHI価<10であり、分離ウイルスはAH1型インフルエンザウイルスであることを確認した。さらにRT-PCRによりN1遺伝子を確認し、分離ウイルスはA/H1N1インフルエンザウイルスと同定された。分離ウイルスの遺伝子解析を現在実施中である。

なお、WHOのFluNetによれば、2005/06シーズンに中国では主にA/H1N1およびB型が分離されており、また、本稿の患者の渡航時期には、A/H1N1ウイルスの流行がhigh activityであったことが報告されている。

近年、国内における非流行期のインフルエンザウイルス分離報告や、海外からの持ち込み事例の報告が各地からあり(IASR 26: 243-245および302-304, 2005)、年間を通じて予断が許されない状況となっている。WHOの情報によれば、本稿の患者の渡航先である中国では、ヒトへのH5N1ウイルス感染確定症例数が20(うち死亡例13)を数えており、日本国内へのH5N1ウイルスの持ち込みの可能性も常に念頭に置くべきである。したがって、各地方衛生研究所においてはH5N1ウイルスの迅速な検査体制の整備を進めると同時に、1年を通じたインフルエンザの動向監視を継続することが重要である。

埼玉県衛生研究所ウイルス担当

島田慎一 河橋幸恵 篠原美千代 内田和江 土井りえ 河本恭子 宇野優香
清水美穂 菊池好則

(IASR 2006年9月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

中国での鳥インフルエンザ流行状況

WHO/EPR 2006年8月14日 - 更新14

中国保健省は、同国で21例目のH5N1型鳥インフルエンザウイルス感染患者を確定した。

患者は、北西部にある新疆ウイグル自治区の62歳の農夫であった。6月19日に発症し、7月12日に死亡した。患者検体での最初の検査は陰性であった。念のため7月から8月の間に再検査が実施されたが、陽性結果が得られた。その結果は、8月14日に保健省によって確認された。

患者の疫学調査では、死亡したり発病した鳥類への曝露歴は見つからなかった。患者は発病前の1カ月間、旅行歴はなかった。患者の自宅周囲では最近、家禽における鳥インフルエンザの感染事例は報告されていない。新疆ウイグル自治区政府はこれまでに、鳥インフルエンザ感染患者を報告していない。

中国でこれまでに診断が確定された患者21名のうち、14名が死亡している。

インドネシアでの鳥インフルエンザ流行状況

WHO/EPR 2006年8月14日 更新26

インドネシア保健省は、同国で57例目となるH5N1型鳥インフルエンザウイルス感染患者を確定した。

患者は、西ジャワ州Garut地区にある辺地の村の17歳男性であった。7月26日に発症し、8月9日に医療機関に紹介された。受診先の病院で医療スタッフは、患者の呼吸器症状と死亡した家禽への曝露歴からH5N1型ウイルス感染を疑った。そのため患者から検体が採取され、検査のために送付された。8月12日に受け取った検査結果では、H5N1型ウイルス感染陽性であった。患者は現在回復中である。

徹底的な野外調査の結果、発症の前に、患者自宅および近所で飼育されていたニワトリとアヒルの死亡が発生していたことが確認された。患者は死亡した鳥の死骸を処分する際に、発病したニワトリに直接接触したとされている。

調査の結果、やはりニワトリが死亡していた近隣の住居に居住していた20歳男性に関する情報も得られた。この男性は7月26日に発症し、8月5日に現地の保健センターを受診した。そして8月6日に、転院のやりくりと検査のための検体採取が行われる前に、呼吸器疾患で死亡した。病因と死因は現在も不明のままである。

インドネシアでこれまでに診断が確定された患者57名のうち、44名が死亡している。

WHO/EPR 2006年8月17日 - 更新27

インドネシア保健省は、同国で58例目となるH5N1型鳥インフルエンザウイルス感染患者を確定した。

患者は、西ジャワ州Garut地区の辺地の村の9歳女兒である。この患者は、2006年8月1日に発症し、8月14日に入院後、8月15日に死亡した。最近、自宅でニワトリの死亡が報告されていた。

現在、この村の3つの集落の調査を行っている。同じ村の別の集落で発生した他の患者1人が、8月14日、保健省により確定された。この17歳の男性は7月26日に発症し、現在回復している。他にも、近所に住む20歳のいところが重症呼吸器疾患で8月5日に死亡している。検査用の検体が採取されていないため、原因は不明のままとなっている。しかし疫学のおよび臨床的所見から、

H5N1型ウイルスに感染していたことが強く疑われている。

2人の若者は同じ日(7月26日)に発症しているため、疫学者らは共通の環境要因により感染したとみなしている。H5N1型感染の潜伏期間として現在認められている2日から8日間に、この2人の間にヒト-ヒト感染が生じることは、極めて考えにくい。

現地保健当局と、保健省およびWHOのチームが、これらの症例の調査と全体的状況の把握のため、3つの集落に駐留している。チームのメンバーには動物衛生の専門家も含まれている。この村では最近、家禽の大量死が発生したことが知られており、上記の3症例はすべて病鳥に曝露されていたとの記録がある。

十分な装備を備えたチームの存在に支えられて、集落内での積極的な啓発がなされたことで、他の人々も受診するようになった。検体採取と検査が進行中である。この集落において7月後半から8月前半に、他に呼吸器疾患で死亡した人があるとの複数の風評についても、調査を行っている。

この村は辺地にあり、陸路での交通が困難ではあるが、現地と保健省およびWHOとの間には良好な情報伝達手段が確立されている。

インドネシアでこれまでに診断が確定された患者58人のうち、45人が死亡している。

WHO/EPR 2006年8月21日 - 更新28

インドネシア保健省は、同国で59例目となるH5N1型鳥インフルエンザウイルス感染患者を確定した。

患者は西ジャワ州の辺地Cikelet亜地区の35歳女性であった。8月17日に重症の呼吸器疾患で入院したが、入院直後に死亡した。この患者は、過去1週間にこの亜地区から報告された3例目の確定患者である。

Cikelet亜地区での調査の暫定的な結果:

Cikelet亜地区入りした専門家チームが現在、今回の事例の調査と新たな患者発生の監視を行っている。3村落(hamlet)が調査の中心となっている。Cikelet亜地区は、大部分が拡大家族制で、それぞれ200~400人が住む、およそ20の隔絶された村落から構成されている。それらの村落は急峻な山に囲まれた盆地に位置しており、岩場の曲がりくねった道しかなく、最も良い交通手段は徒歩や馬である。

この地区では土着している感染症、特にマラリアによる死亡が多く、医療・保健事情は悪く、死亡者の医療記録は乏しいか全く存在していない。

2006年6月後半以前には、この地区では家禽の大量死の発生は確認されていなかった。そしてその時期に、宗教的な饗宴のために、外部の市場から生きたニワトリが購入され、現地の家禽に加えられた。そのすぐ後に家禽の大量死が発生し、7月から8月第1週まで、1つの村落から別の村落へと徐々に感染拡大し、継続した。

現地住民は鳥インフルエンザの経験が全くなかったため、家禽の死骸処分や、発病したり死亡したニワトリの食肉処理中に、感染危険性の高い行為が多く認められた。現時点では、このような曝露が大部分の感染確定患者、あるいは疑い患者の感染源であると考えられている。

7月後半と8月上旬に、呼吸器疾患による死亡者が複数発生したことが確認されているが、検査用の検体は採取されてなく、医療記録も一般的に不十分である。このような診断未確定の死亡者の一部は確定患者の家族からも発生しているが、調査からはヒト・ヒト感染の証拠も、鳥インフルエンザウイルスが容易に鳥類からヒトへと感染拡大している証拠も確認されていない。

住民の協力は良好で、発熱性疾患の戸別サーベイランスが継続されており、有症者から検体が採取され、検査のために送付されている。専門家チームには十分な抗ウイルス薬が供給されており、それらは患者との濃厚接触者に予防的に投与されているほか、インフルエンザ様症状を呈している患者に治療用として投与されている。



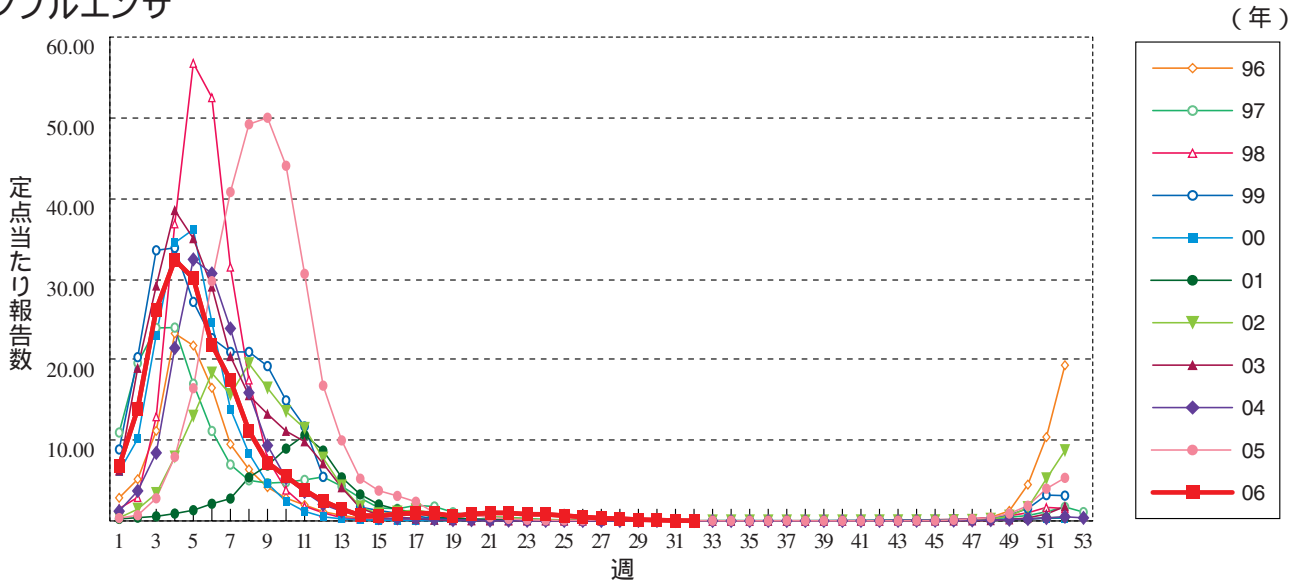
感染症の話

今週はお休みさせていただきます。
「感染症の話」過去の掲載分については
<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/index.html>
でご覧いただけます。

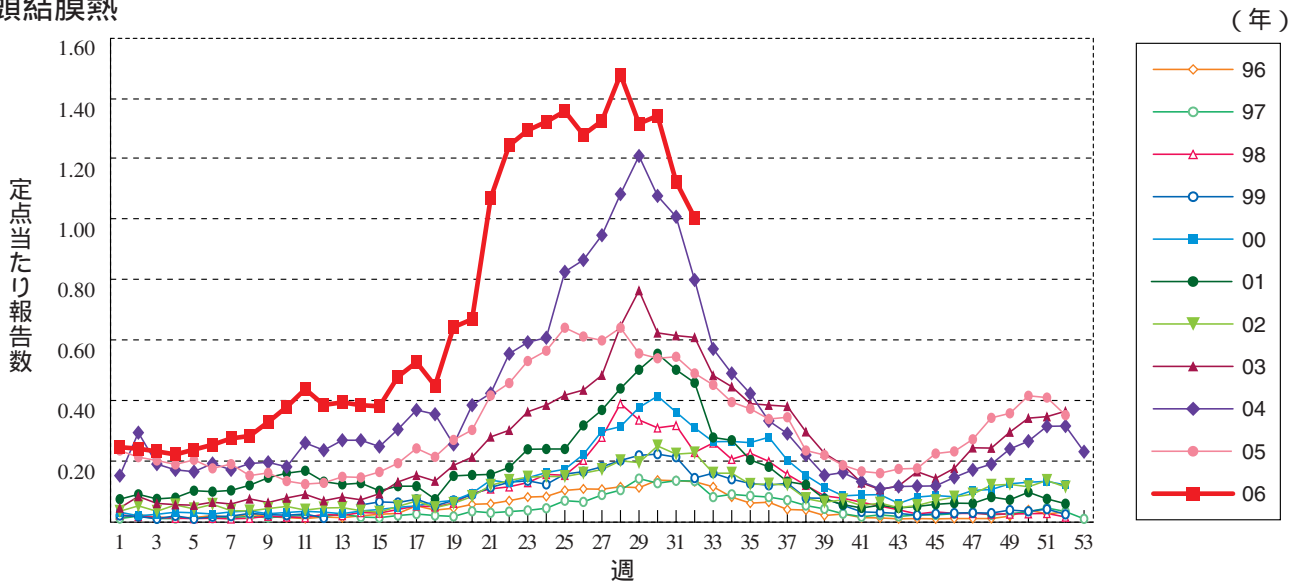


グラフ総覧(32週)

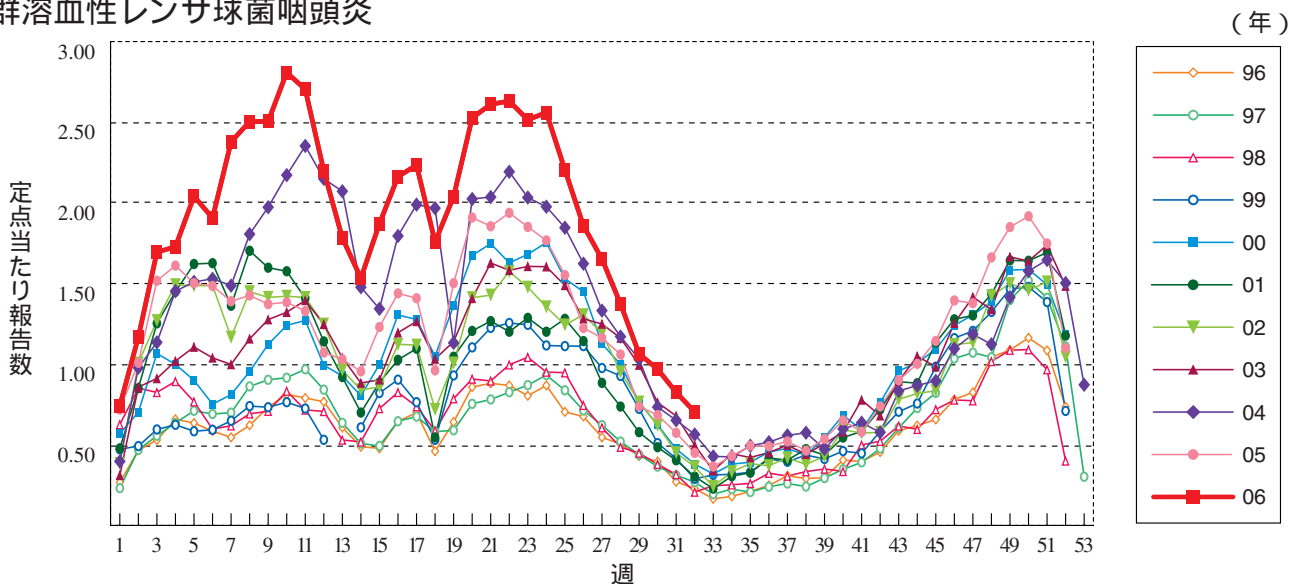
インフルエンザ



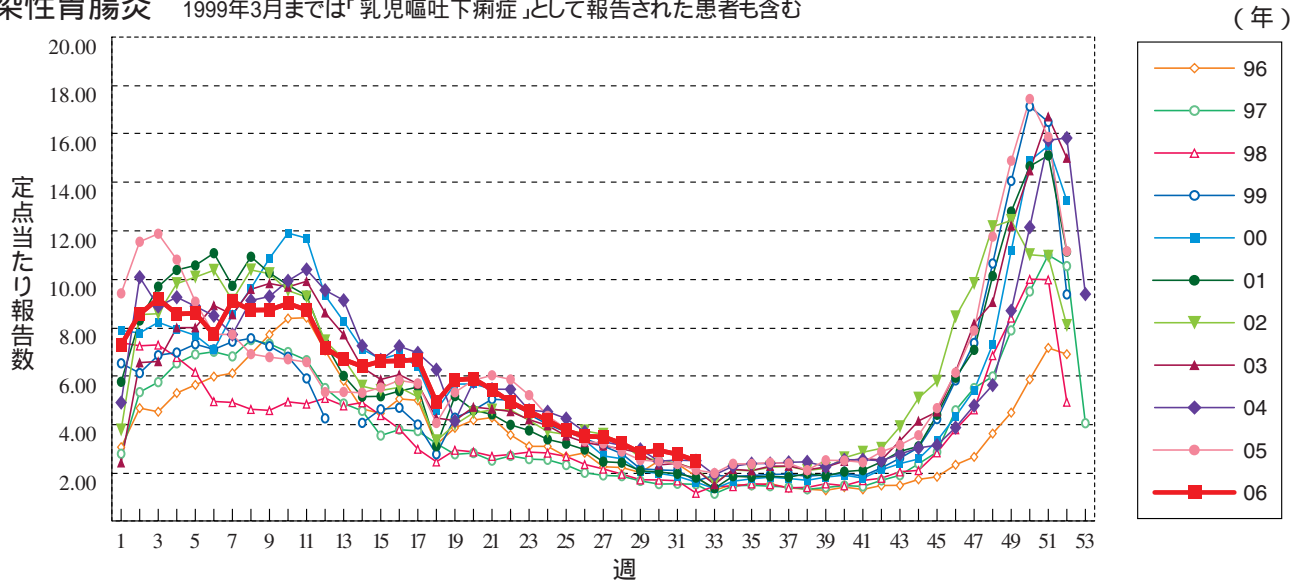
咽頭結膜熱



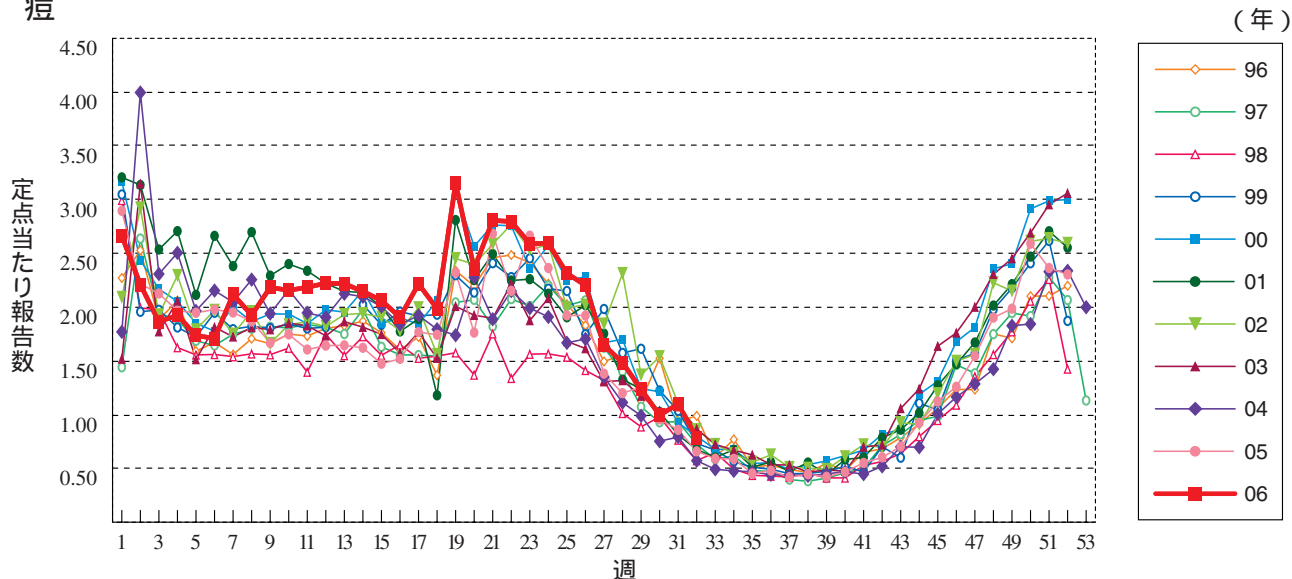
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



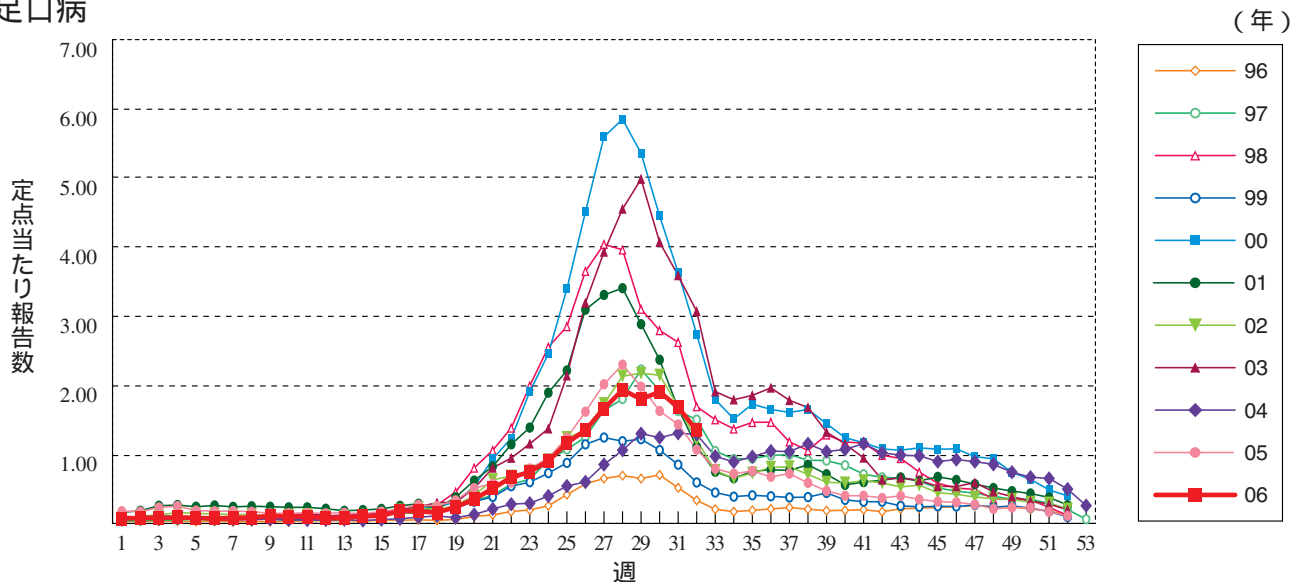
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



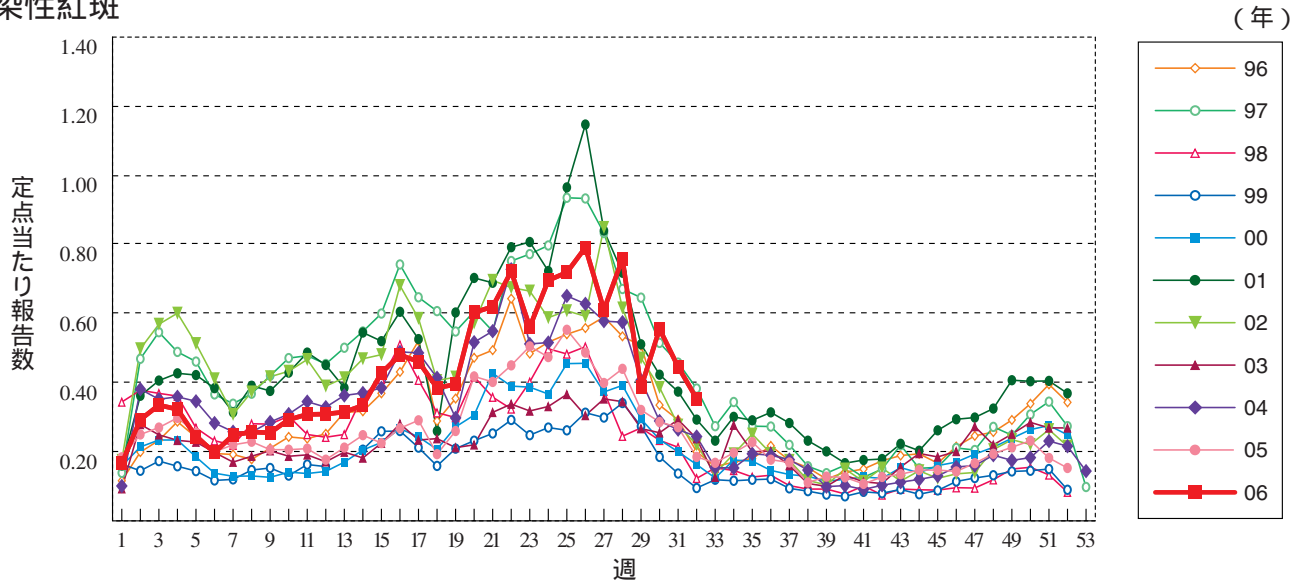
水痘



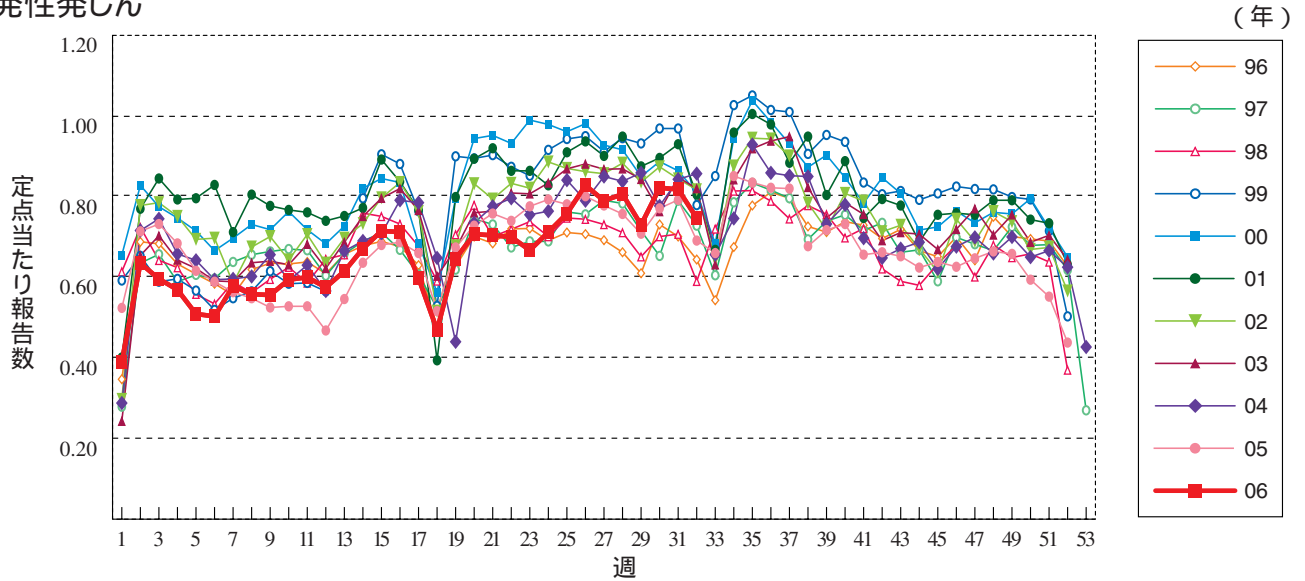
手足口病



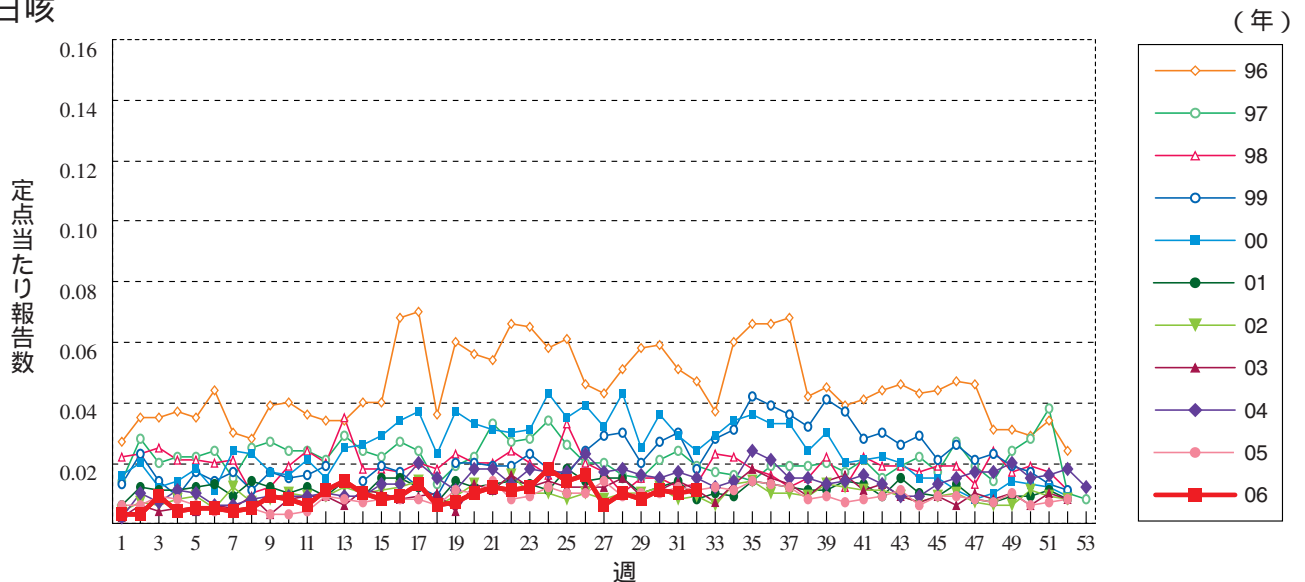
伝染性紅斑



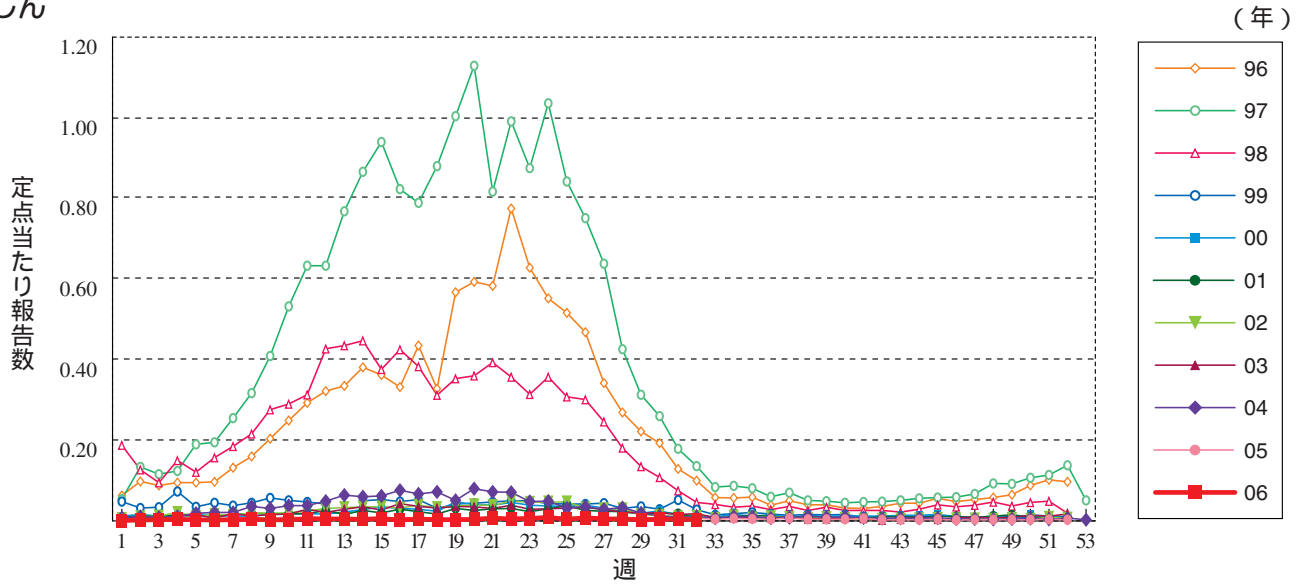
突発性発しん



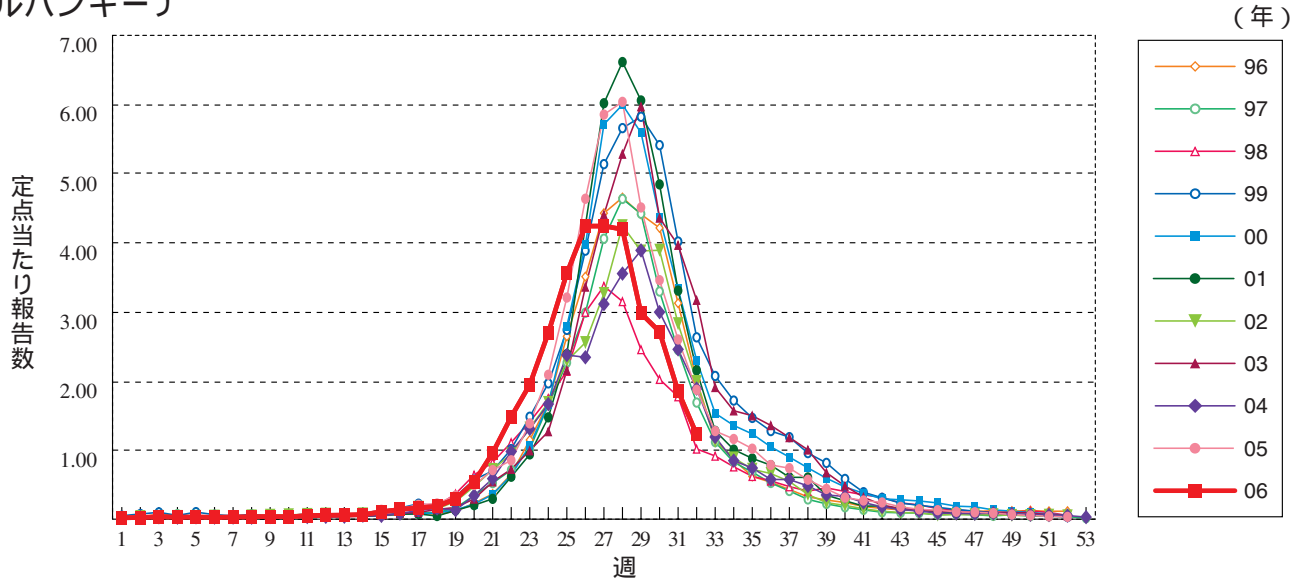
百日咳



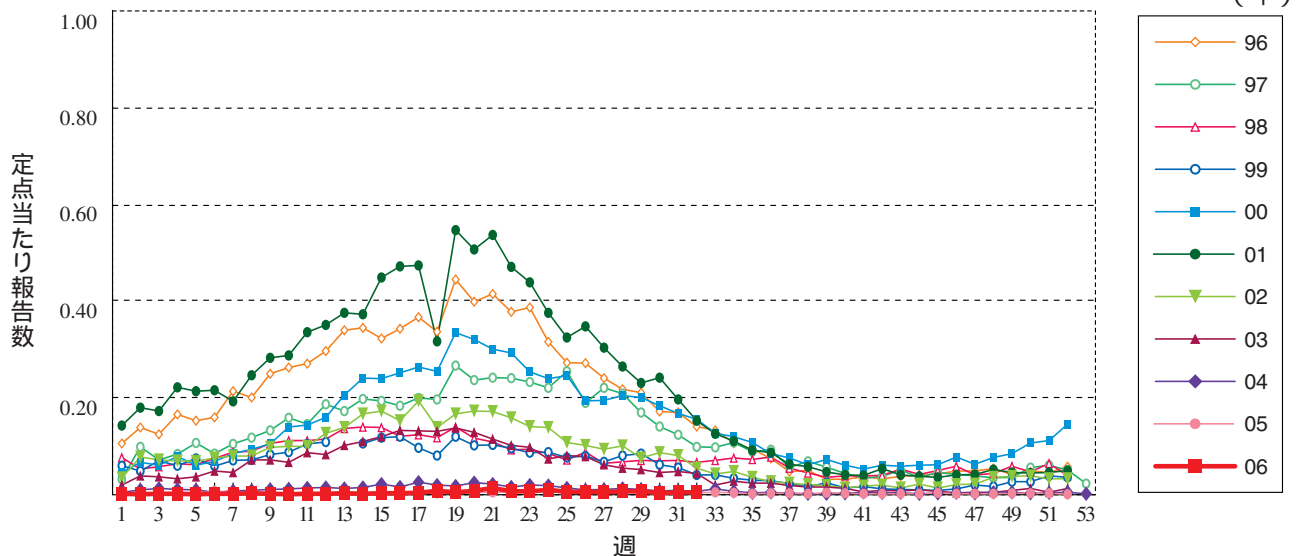
風しん



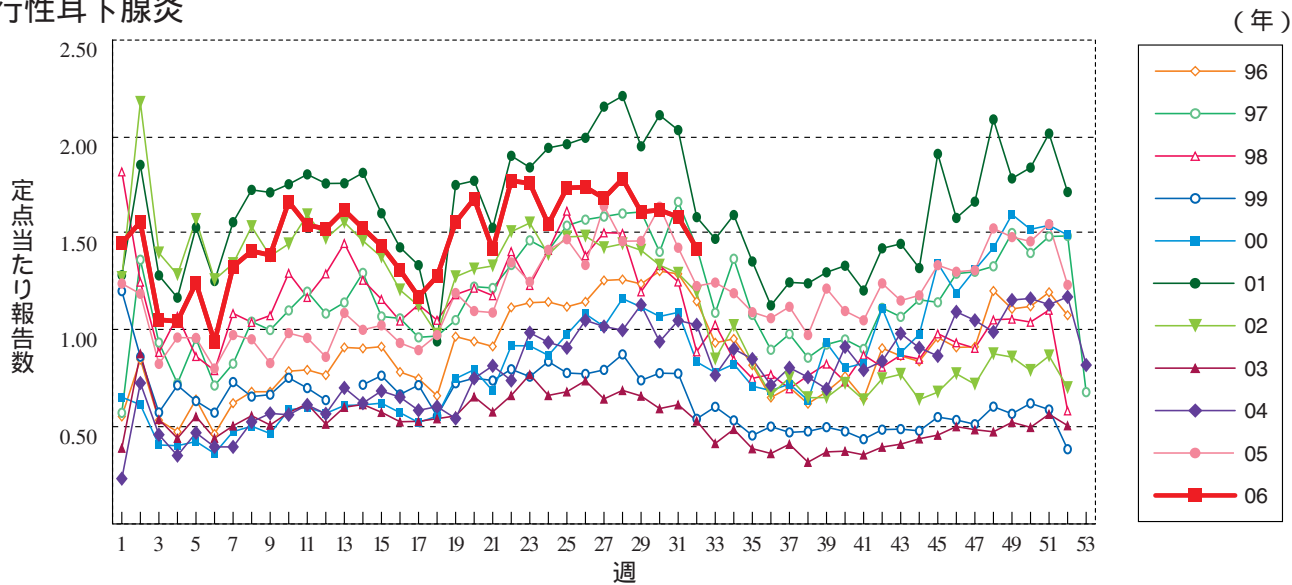
ヘルパンギーナ



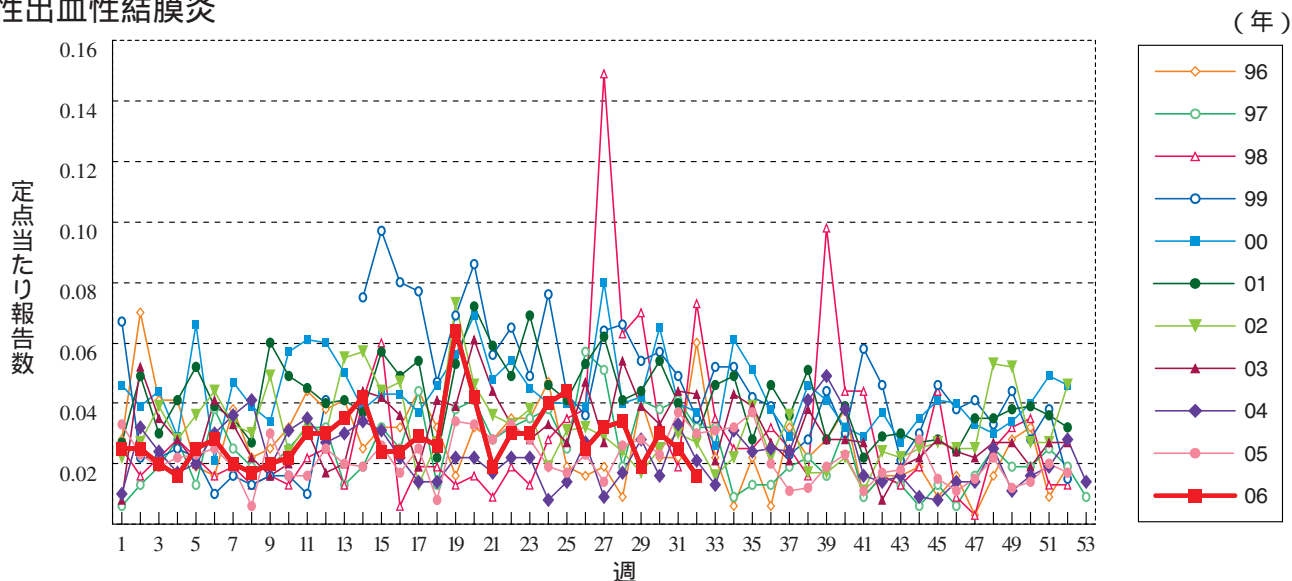
麻しん (成人麻しんを除く) 1999年の12週以前は成人麻しんを含む



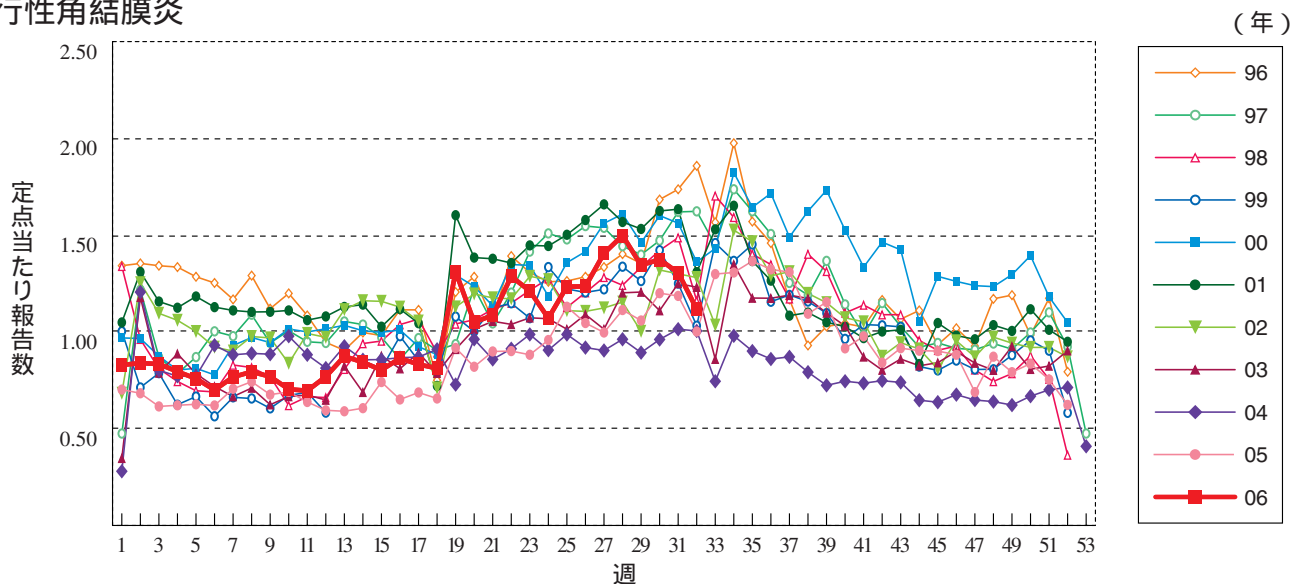
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

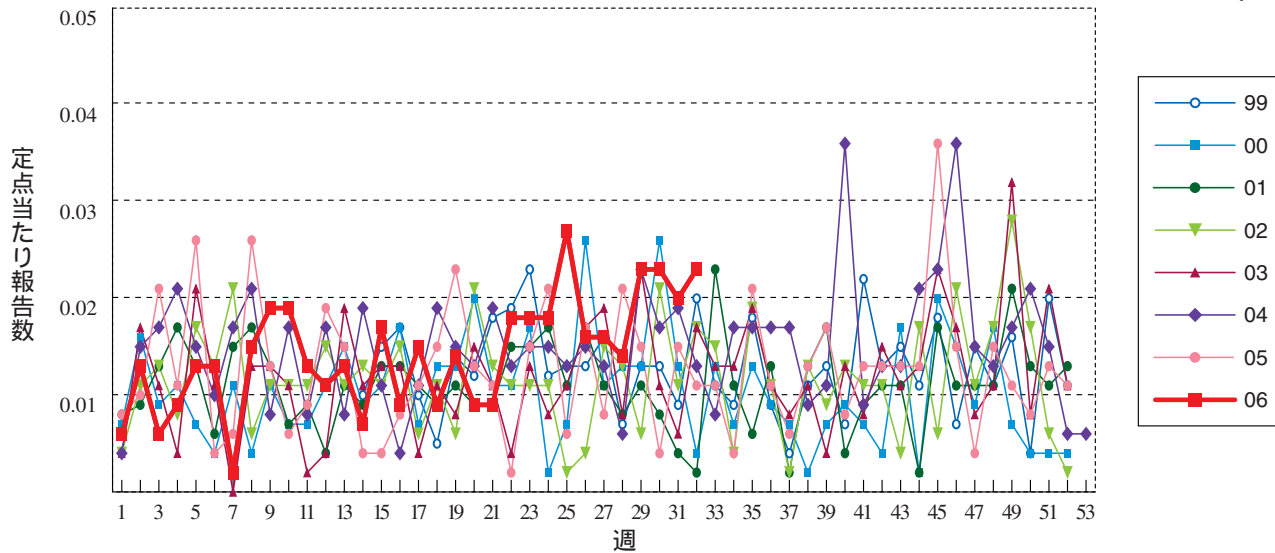


流行性角結膜炎



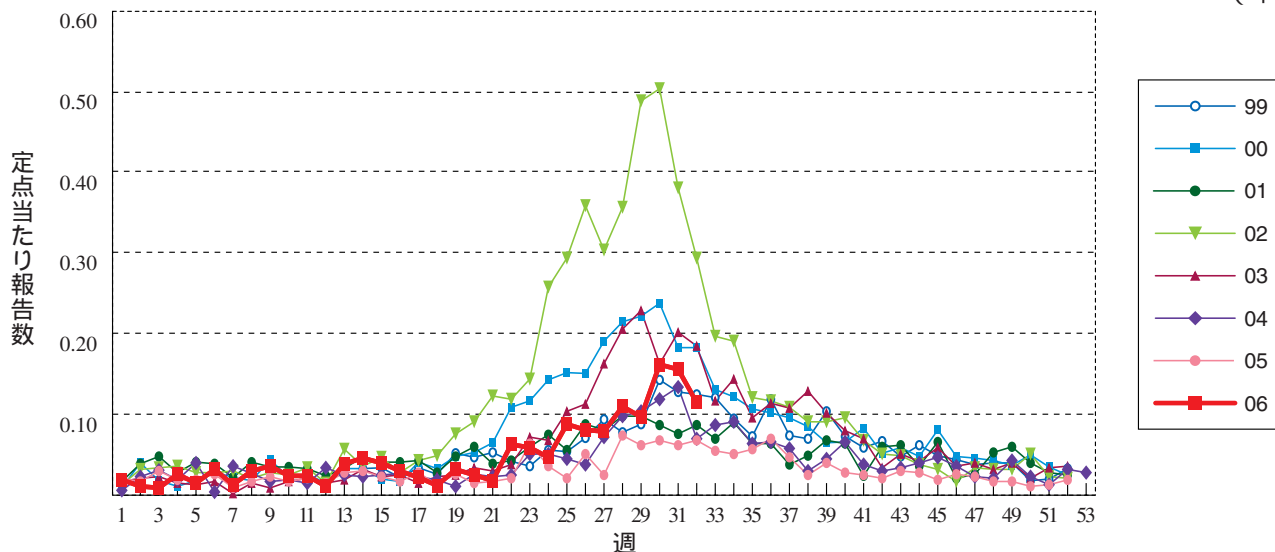
細菌性髄膜炎

(年)



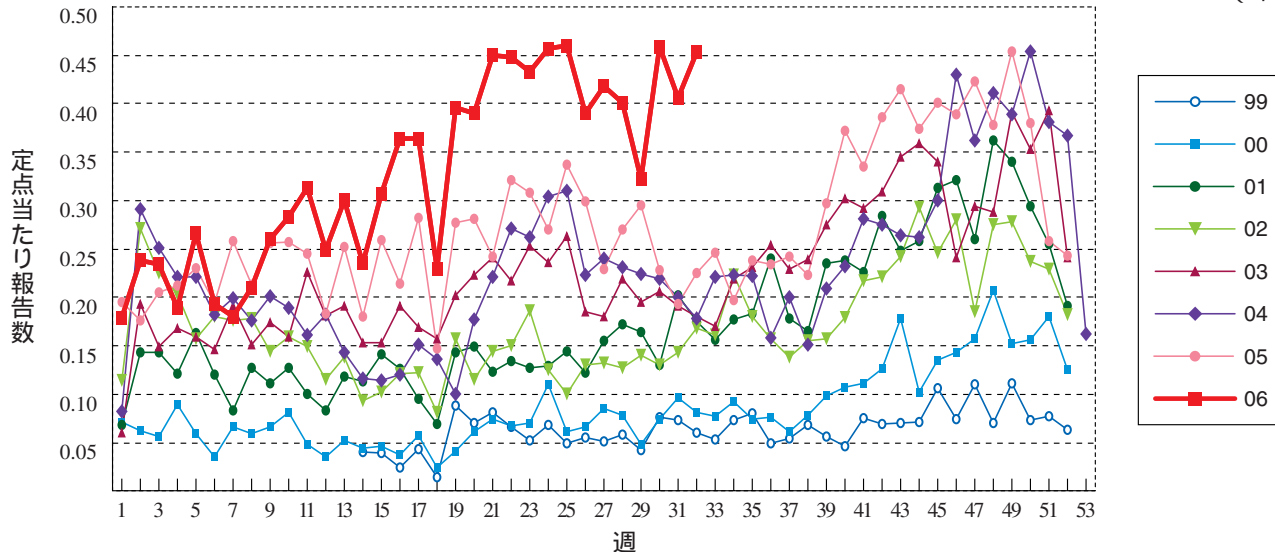
無菌性髄膜炎

(年)



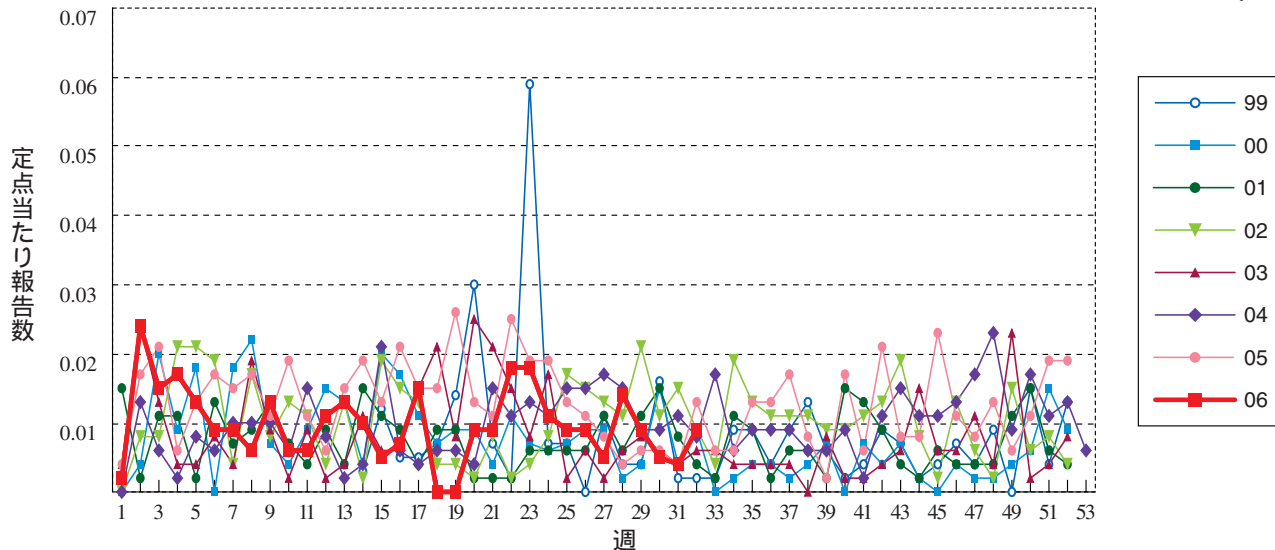
マイコプラズマ肺炎

(年)



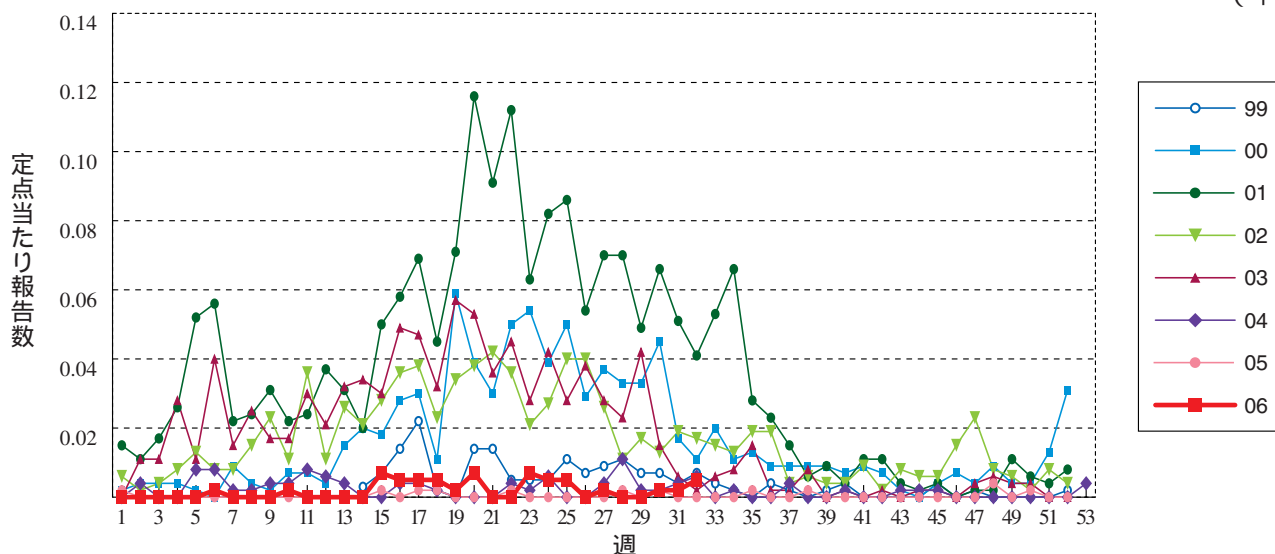
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



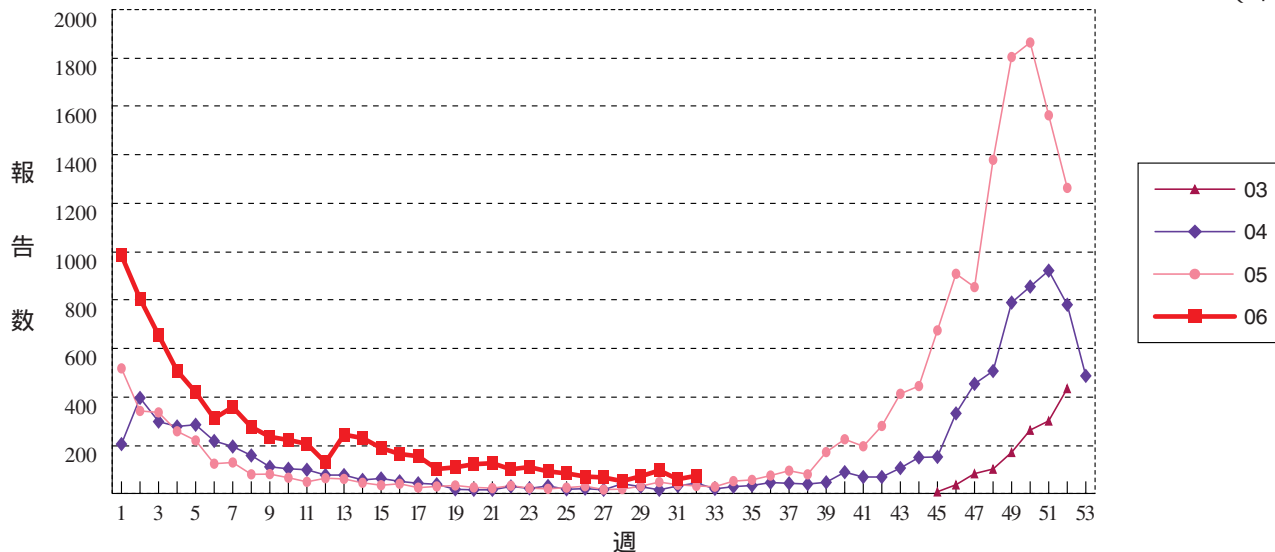
成人麻しん

(年)



RSウイルス感染症 定点当たり報告数ではなく、報告数を示しています。

(年)





32週のデータ

注1)表中の報告数は8月18日集計分であり、その後の報告は次週以降の累積に反映されます。

2006年4月からの報告システムの変更に伴い、疾病の並び順を一部変更しました。

注2)また報告システム変更の影響により、ここの「累積」においては漏れている報告例もありますが、近いうちにそれらも反映する予定です。

*病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

2006年32週

	エボラ出血熱		クリミア ・コンゴ出血熱		重症急性呼吸器 症候群*		痘 そう		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		急性灰白髄炎		コレラ		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年32週

	細菌性赤痢		ジフテリア		腸チフス		パラチフス		腸管出血性大腸菌感染症		E型肝炎		ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)		A型肝炎		エキノコックス症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	12	247	-	-	-	52	-	16	140	1863	1	45	-	-	-	233	1	15
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	2	30	1	12	-	-	-	12	1	14
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	3	26	-	-	-	-	-	2	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	26	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	1	-	-	-	-	-	-	6	35	-	2	-	-	-	4	-	-
秋田県	-	2	-	-	-	-	-	-	3	57	-	-	-	-	-	2	-	-
山形県	-	1	-	-	-	-	-	-	3	20	-	-	-	-	-	1	-	-
福島県	-	1	-	-	-	-	-	-	2	19	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	1	-	-	-	1	-	-	2	14	-	1	-	-	-	2	-	-
栃木県	-	2	-	-	-	1	-	-	-	9	-	2	-	-	-	1	-	-
群馬県	-	1	-	-	-	-	-	-	6	100	-	1	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	7	-	-	-	4	-	-	-	62	-	-	-	-	-	8	-	-
千葉県	4	44	-	-	-	4	-	1	3	72	-	1	-	-	-	3	-	-
東京都	1	35	-	-	-	16	-	10	7	143	-	3	-	-	-	23	-	-
神奈川県	2	12	-	-	-	6	-	1	7	85	-	7	-	-	-	11	-	-
新潟県	-	8	-	-	-	1	-	-	-	7	-	1	-	-	-	15	-	-
富山県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	16	-	1	-	-	-	2	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	9	45	-	-	-	-	-	1	-	-
福井県	-	-	-	-	-	1	-	-	1	16	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	1	5	-	-	-	1	-	1	2	20	-	2	-	-	-	2	-	-
岐阜県	-	1	-	-	-	-	-	-	2	76	-	-	-	-	-	8	-	-
静岡県	-	3	-	-	-	1	-	-	2	41	-	-	-	-	-	5	-	-
愛知県	-	19	-	-	-	4	-	2	10	110	-	3	-	-	-	16	-	-
三重県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	21	-	-	-	-	-	1	-	1
滋賀県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	21	-	-	-	-	-	2	-	-
京都府	-	1	-	-	-	1	-	-	1	25	-	1	-	-	-	9	-	-
大阪府	2	56	-	-	-	6	-	1	11	167	-	-	-	-	-	31	-	-
兵庫県	-	15	-	-	-	-	-	-	6	92	-	1	-	-	-	19	-	-
奈良県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	2	13	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	1	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	3	53	-	-	-	-	-	14	-	-
広島県	-	4	-	-	-	-	-	-	4	52	-	1	-	-	-	7	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	32	-	1	-	-	-	4	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	1	-	-
愛媛県	1	4	-	-	-	2	-	-	-	13	-	-	-	-	-	4	-	-
高知県	-	2	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-
福岡県	1	11	-	-	-	1	-	-	5	102	-	1	-	-	-	7	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	4	14	-	-	-	-	-	2	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	1	-	-	5	16	-	-	-	-	-	6	-	-
熊本県	-	1	-	-	-	-	-	-	11	59	-	4	-	-	-	2	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	2	21	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	8	40	-	-	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	5	22	-	-	-	-	-	1	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-	-	1	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年32週

	黄熱		オウム病		回帰熱		Q熱		狂犬病		高病原性鳥インフルエンザ		コクシジオイデス症		サル痘		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	15	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年32週

	炭 疽		つつが虫病		デング熱		ニパウイルス 感染症		日本紅斑熱		日本脳炎		ハンタウイルス 肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	174	-	29	-	-	-	14	-	-	-	-	-	-	-	3
北海道	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
青森県	-	-	-	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	3	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
神奈川県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	9	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岐阜県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	4	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年32週

	発しんチフス		ポツリヌス症		マラリア		野 兎 病		ライム病		リッサウイルス 感染症		レジオネラ症		レプトスピラ症		アメーバ赤痢	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	1	1	36	-	-	-	3	-	-	9	291	-	1	7	449
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	8	-	-	-	12
青森県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	7
秋田県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	5
茨城県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	4
栃木県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	3
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	15	-	-	2	19
千葉県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	1	25
東京都	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	40	-	-	3	116
神奈川県	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	1	18	-	-	-	45
新潟県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	1	15	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	3
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	5
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9	-	-	-	6
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	1	12
愛知県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	22	-	-	-	30
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	5
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	10	-	-	-	6
京都府	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	11
大阪府	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	1	19	-	1	-	55
兵庫県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	27
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	5
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	4
鳥取県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	5
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	3
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
高知県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	7
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

*E型肝炎およびA型肝炎を除く。
 **ウエストナイル脳炎および日本脳炎を除く。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年32週

	ウイルス性肝炎*		急性脳炎**		クリプトスポリジウム症		クロイツフェルト・ヤコブ病		劇症型溶血性レンサ球菌感染症		後天性免疫不全症候群		ジアルジア症		髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風しん症候群	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	6	153	-	102	-	10	-	99	-	80	14	748	-	55	-	9	-	-
北海道	-	4	-	3	-	2	-	5	-	6	-	20	-	1	-	-	-	-
青森県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
秋田県	1	1	-	-	-	-	-	2	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-
福島県	-	2	-	2	-	-	-	2	-	2	-	8	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	3	-	6	-	-	-	1	-	2	1	21	-	1	-	-	-	-
栃木県	-	1	-	5	-	-	-	1	-	-	1	21	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	1	-	-	-	3	-	3	-	7	-	-	-	-	-	-
埼玉県	1	2	-	6	-	-	-	4	-	3	-	24	-	1	-	1	-	-
千葉県	-	2	-	15	-	-	-	4	-	6	-	31	-	-	-	-	-	-
東京都	-	21	-	4	-	5	-	11	-	11	5	252	-	16	-	1	-	-
神奈川県	1	6	-	2	-	1	-	7	-	4	1	42	-	6	-	2	-	-
新潟県	-	-	-	2	-	-	-	5	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
富山県	-	3	-	1	-	-	-	3	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
石川県	-	1	-	3	-	1	-	1	-	2	-	6	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	2	-	2	-	-	-	4	-	-	-	4	-	6	-	-	-	-
長野県	-	6	-	-	-	-	-	1	-	1	-	14	-	-	-	1	-	-
岐阜県	-	3	-	1	-	-	-	1	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	5	-	2	-	-	-	3	-	5	-	11	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	7	-	3	-	-	-	3	-	8	1	62	-	2	-	1	-	-
三重県	-	8	-	3	-	-	-	1	-	1	1	3	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	7	-	1	-	-	-	-
京都府	-	3	-	-	-	-	-	3	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	18	-	7	-	1	-	5	-	3	2	80	-	9	-	1	-	-
兵庫県	1	14	-	4	-	-	-	4	-	5	1	25	-	1	-	-	-	-
奈良県	-	5	-	1	-	-	-	-	-	2	-	10	-	3	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-
島根県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	4	-	2	-	-	-	2	-	1	-	5	-	2	-	-	-	-
広島県	1	6	-	7	-	-	-	4	-	-	1	7	-	1	-	-	-	-
山口県	-	2	-	1	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	3	-	1	-	-	-	1	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	6	-	7	-	-	-	5	-	-	-	12	-	2	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	1	-	-
熊本県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	1	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年32週

	梅 毒		破 傷 風		バンコマイシン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		バンコマイシン耐性 腸球菌感染症		インフルエンザ (H5N1)	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	5	376	-	60	-	-	-	44	-	-
北海道	-	7	-	2	-	-	-	-	-	-
青森県	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-
岩手県	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-
宮城県	-	9	-	-	-	-	-	1	-	-
秋田県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-
福島県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	5	-	2	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	4	-	2	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	4	-	2	-	-	-	2	-	-
千葉県	-	9	-	6	-	-	-	1	-	-
東京都	1	76	-	6	-	-	-	7	-	-
神奈川県	-	15	-	3	-	-	-	7	-	-
新潟県	-	4	-	2	-	-	-	2	-	-
富山県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
長野県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-
静岡県	-	8	-	-	-	-	-	3	-	-
愛知県	1	30	-	2	-	-	-	-	-	-
三重県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	7	-	1	-	-	-	2	-	-
大阪府	-	21	-	2	-	-	-	4	-	-
兵庫県	1	13	-	1	-	-	-	1	-	-
奈良県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
岡山県	-	4	-	3	-	-	-	1	-	-
広島県	-	5	-	2	-	-	-	-	-	-
山口県	-	8	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-
香川県	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	24	-	-	-	-	-	1	-	-
佐賀県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-
熊本県	1	27	-	2	-	-	-	1	-	-
大分県	-	6	-	2	-	-	-	2	-	-
宮崎県	-	5	-	3	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	1	12	-	5	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-

*高病原性鳥インフルエンザを除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2006年32週

	インフルエンザ*		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	96	0.02	2858	1.01	1998	0.70	7073	2.49	2228	0.78	3820	1.35	1004	0.35	2121	0.75	32	0.01
北海道	1	0.00	123	0.86	109	0.76	128	0.90	149	1.04	113	0.79	14	0.10	81	0.57	-	-
青森県	6	0.09	23	0.55	15	0.36	58	1.38	73	1.74	12	0.29	12	0.29	24	0.57	-	-
岩手県	-	-	1	0.03	26	0.67	49	1.26	31	0.79	5	0.13	10	0.26	21	0.54	1	0.03
宮城県	-	-	14	0.23	26	0.43	116	1.90	56	0.92	45	0.74	37	0.61	37	0.61	-	-
秋田県	-	-	34	1.03	42	1.27	63	1.91	20	0.61	11	0.33	19	0.58	20	0.61	1	0.03
山形県	-	-	34	1.13	26	0.87	39	1.30	31	1.03	12	0.40	14	0.47	25	0.83	-	-
福島県	-	-	54	1.15	58	1.23	140	2.98	52	1.11	36	0.77	18	0.38	48	1.02	-	-
茨城県	5	0.08	57	0.85	52	0.78	66	0.99	39	0.58	32	0.48	24	0.36	33	0.49	2	0.03
栃木県	-	-	31	0.67	13	0.28	46	1.00	20	0.43	103	2.24	15	0.33	31	0.67	1	0.02
群馬県	-	-	53	0.88	37	0.62	198	3.30	61	1.02	62	1.03	9	0.15	55	0.92	-	-
埼玉県	2	0.01	200	1.45	111	0.80	380	2.75	155	1.12	322	2.33	80	0.58	126	0.91	1	0.01
千葉県	1	0.01	86	0.91	64	0.67	169	1.78	90	0.95	58	0.61	44	0.46	70	0.74	5	0.05
東京都	-	-	83	0.59	77	0.55	304	2.17	52	0.37	133	0.95	31	0.22	76	0.54	-	-
神奈川県	-	-	207	1.19	124	0.71	374	2.15	111	0.64	133	0.76	91	0.52	124	0.71	3	0.02
新潟県	-	-	53	0.91	60	1.03	78	1.34	43	0.74	239	4.12	18	0.31	43	0.74	-	-
富山県	-	-	41	1.41	29	1.00	94	3.24	13	0.45	48	1.66	6	0.21	20	0.69	-	-
石川県	1	0.02	27	0.93	27	0.93	101	3.48	30	1.03	142	4.90	2	0.07	15	0.52	-	-
福井県	-	-	20	0.91	14	0.64	153	6.95	13	0.59	182	8.27	-	-	16	0.73	-	-
山梨県	-	-	10	0.50	3	0.15	28	1.40	6	0.30	43	2.15	4	0.20	3	0.15	-	-
長野県	-	-	83	1.60	42	0.81	129	2.48	47	0.90	239	4.60	31	0.60	35	0.67	1	0.02
岐阜県	-	-	54	1.02	19	0.36	41	0.77	43	0.81	123	2.32	28	0.53	31	0.58	-	-
静岡県	3	0.03	80	0.93	59	0.69	279	3.24	65	0.76	218	2.53	54	0.63	56	0.65	-	-
愛知県	1	0.01	140	0.80	138	0.79	292	1.68	168	0.97	382	2.20	132	0.76	125	0.72	2	0.01
三重県	-	-	81	1.80	59	1.31	211	4.69	46	1.02	99	2.20	18	0.40	57	1.27	-	-
滋賀県	1	0.02	27	0.84	19	0.59	32	1.00	31	0.97	132	4.13	14	0.44	11	0.34	-	-
京都府	1	0.01	56	0.78	49	0.68	172	2.39	26	0.36	34	0.47	31	0.43	30	0.42	-	-
大阪府	-	-	176	1.21	140	0.97	403	2.78	137	0.94	136	0.94	35	0.24	114	0.79	4	0.03
兵庫県	1	0.01	44	0.38	60	0.51	278	2.38	55	0.47	149	1.27	23	0.20	80	0.68	5	0.04
奈良県	-	-	69	1.97	23	0.66	65	1.86	19	0.54	36	1.03	1	0.03	24	0.69	-	-
和歌山県	-	-	25	0.81	15	0.48	82	2.65	31	1.00	87	2.81	16	0.52	31	1.00	1	0.03
鳥取県	-	-	21	1.11	23	1.21	84	4.42	7	0.37	6	0.32	10	0.53	25	1.32	-	-
島根県	-	-	20	0.87	13	0.57	107	4.65	19	0.83	7	0.30	6	0.26	16	0.70	-	-
岡山県	-	-	27	0.50	20	0.37	172	3.19	21	0.39	50	0.93	11	0.20	30	0.56	-	-
広島県	-	-	61	0.88	33	0.48	250	3.62	37	0.54	24	0.35	23	0.33	44	0.64	2	0.03
山口県	-	-	39	0.91	36	0.84	196	4.56	28	0.65	14	0.33	11	0.26	42	0.98	-	-
徳島県	-	-	13	0.62	20	0.95	22	1.05	32	1.52	26	1.24	3	0.14	17	0.81	-	-
香川県	-	-	23	0.72	13	0.41	97	3.03	19	0.59	56	1.75	2	0.06	30	0.94	1	0.03
愛媛県	3	0.05	36	0.97	22	0.59	146	3.95	36	0.97	35	0.95	14	0.38	48	1.30	-	-
高知県	-	-	44	1.47	16	0.53	58	1.93	14	0.47	71	2.37	1	0.03	17	0.57	-	-
福岡県	8	0.04	177	1.48	85	0.71	359	2.99	116	0.97	30	0.25	14	0.12	110	0.92	2	0.02
佐賀県	-	-	39	1.70	10	0.43	21	0.91	14	0.61	14	0.61	8	0.35	37	1.61	-	-
長崎県	1	0.01	56	1.27	14	0.32	126	2.86	23	0.52	12	0.27	20	0.45	39	0.89	-	-
熊本県	2	0.03	61	1.27	29	0.60	210	4.38	22	0.46	34	0.71	13	0.27	53	1.10	-	-
大分県	1	0.02	46	1.28	44	1.22	231	6.42	44	1.22	13	0.36	6	0.17	58	1.61	-	-
宮崎県	21	0.39	133	3.80	45	1.29	169	4.83	29	0.83	6	0.17	23	0.66	56	1.60	-	-
鹿児島県	-	-	53	0.95	27	0.48	168	3.00	41	0.73	13	0.23	8	0.14	25	0.45	-	-
沖縄県	37	0.64	23	0.68	12	0.35	89	2.62	13	0.38	43	1.26	-	-	12	0.35	-	-

*髄膜炎菌性髄膜炎は除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2006年32週

	風しん		ヘルパンギーナ		麻しん (成人麻しんを除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎*		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ 肺炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	17	0.01	3474	1.22	15	0.01	4040	1.42	9	0.02	644	1.12	10	0.02	50	0.12	196	0.45
北海道	-	-	343	2.40	1	0.01	267	1.87	1	0.03	14	0.48	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	159	3.79	-	-	80	1.90	1	0.09	9	0.82	-	-	-	-	4	0.67
岩手県	-	-	33	0.85	-	-	43	1.10	-	-	12	1.00	-	-	-	-	5	0.25
宮城県	-	-	130	2.13	-	-	111	1.82	1	0.08	1	0.08	-	-	-	-	10	0.83
秋田県	1	0.03	48	1.45	-	-	18	0.55	-	-	2	0.29	-	-	-	-	2	0.25
山形県	-	-	30	1.00	-	-	16	0.53	-	-	3	0.38	1	0.10	-	-	4	0.40
福島県	-	-	54	1.15	-	-	95	2.02	-	-	9	0.75	-	-	-	-	2	0.33
茨城県	-	-	80	1.19	-	-	60	0.90	-	-	30	2.31	-	-	-	-	3	0.50
栃木県	-	-	15	0.33	-	-	62	1.35	-	-	21	1.75	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	41	0.68	-	-	154	2.57	1	0.08	44	3.38	-	-	1	0.13	9	1.13
埼玉県	-	-	134	0.97	-	-	210	1.52	1	0.03	59	1.97	-	-	-	-	10	1.11
千葉県	-	-	90	0.95	-	-	81	0.85	-	-	29	1.21	-	-	1	0.14	10	1.43
東京都	-	-	68	0.49	2	0.01	78	0.56	-	-	6	0.43	1	0.04	1	0.04	3	0.12
神奈川県	-	-	133	0.76	-	-	209	1.20	-	-	53	2.04	-	-	2	0.25	2	0.25
新潟県	-	-	56	0.97	-	-	251	4.33	-	-	11	1.00	-	-	6	0.46	5	0.38
富山県	-	-	55	1.90	-	-	37	1.28	-	-	11	1.57	-	-	-	-	1	0.20
石川県	-	-	32	1.10	-	-	25	0.86	-	-	9	1.29	-	-	4	0.80	1	0.20
福井県	-	-	15	0.68	-	-	6	0.27	-	-	-	-	1	0.17	9	1.50	-	-
山梨県	-	-	7	0.35	-	-	51	2.55	-	-	5	0.63	-	-	-	-	7	0.70
長野県	-	-	142	2.73	-	-	178	3.42	-	-	8	0.80	-	-	2	0.18	6	0.55
岐阜県	-	-	42	0.79	-	-	18	0.34	-	-	3	0.30	-	-	5	1.00	-	-
静岡県	-	-	60	0.70	3	0.03	154	1.79	-	-	4	0.20	-	-	-	-	3	0.30
愛知県	1	0.01	189	1.09	4	0.02	166	0.95	1	0.03	28	0.85	-	-	1	1.00	6	6.00
三重県	-	-	51	1.13	-	-	97	2.16	-	-	4	0.33	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	32	1.00	-	-	11	0.34	-	-	7	1.00	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	57	0.79	1	0.01	56	0.78	-	-	18	1.06	1	0.17	-	-	1	0.17
大阪府	9	0.06	182	1.26	-	-	220	1.52	-	-	26	0.74	2	0.20	4	0.40	36	3.60
兵庫県	1	0.01	172	1.47	2	0.02	167	1.43	-	-	28	1.00	-	-	1	0.08	-	-
奈良県	-	-	22	0.63	-	-	21	0.60	-	-	6	0.67	1	0.17	2	0.33	-	-
和歌山県	-	-	37	1.19	-	-	30	0.97	-	-	1	0.33	-	-	3	0.27	3	0.27
鳥取県	-	-	22	1.16	-	-	23	1.21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	1	0.04	37	1.61	-	-	65	2.83	-	-	1	0.33	-	-	1	0.13	-	-
岡山県	2	0.04	62	1.15	-	-	83	1.54	-	-	6	0.50	-	-	-	-	5	1.00
広島県	-	-	87	1.26	2	0.03	32	0.46	-	-	24	1.41	-	-	2	0.10	12	0.57
山口県	-	-	95	2.21	-	-	49	1.14	1	0.14	9	1.29	-	-	-	-	7	0.78
徳島県	-	-	11	0.52	-	-	53	2.52	-	-	3	0.75	-	-	-	-	-	-
香川県	1	0.03	33	1.03	-	-	28	0.88	-	-	3	1.00	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	56	1.51	-	-	39	1.05	-	-	30	3.75	-	-	-	-	3	0.50
高知県	-	-	83	2.77	-	-	23	0.77	1	0.33	4	1.33	-	-	-	-	2	0.29
福岡県	-	-	127	1.06	-	-	134	1.12	-	-	35	1.35	1	0.07	-	-	8	0.53
佐賀県	-	-	38	1.65	-	-	22	0.96	-	-	2	0.50	-	-	1	0.17	6	1.00
長崎県	-	-	68	1.55	-	-	26	0.59	-	-	12	1.50	-	-	-	-	10	0.91
熊本県	-	-	83	1.73	-	-	57	1.19	-	-	22	2.44	1	0.07	-	-	3	0.20
大分県	1	0.03	68	1.89	-	-	103	2.86	-	-	-	-	-	-	1	0.09	-	-
宮崎県	-	-	67	1.91	-	-	86	2.46	1	0.25	15	3.75	-	-	1	0.14	-	-
鹿児島県	-	-	18	0.32	-	-	220	3.93	-	-	2	0.29	1	0.08	-	-	3	0.25
沖縄県	-	-	10	0.29	-	-	25	0.74	-	-	15	1.50	-	-	2	0.29	4	0.57

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 2006年32週

	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻しん		RSウイルス 感染症
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	
総 数	4	0.01	2	0.00	73
北海道	-	-	-	-	3
青森県	-	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	7
茨城県	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	2
東京都	1	0.04	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	2
新潟県	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	1	0.20	-
静岡県	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	1
三重県	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	1	0.10	3
兵庫県	-	-	-	-	2
奈良県	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-
岡山県	1	0.20	-	-	-
広島県	-	-	-	-	1
山口県	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	5
高知県	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	11
佐賀県	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	1
宮崎県	-	-	-	-	4
鹿児島県	2	0.17	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	29

獣医師が届出を行う感染症と対象動物

注) 報告数は感染実験等の学術的研究による発生を除く。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年32週

	エボラ出血熱		マールブルグ病		ペスト		重症急性呼吸器症候群 (SARS)						細菌性赤痢		ウエストナイル熱		エキノコックス症	
	サル		サル		プレーリードッグ	イタチアナグマ		タヌキ		ハクビシン		サル		鳥類		犬		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28	-	-	-	-	
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-	
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別 2006年32週

	インフルエンザ(H5N1)	
	鳥類	
	報告数	累積
総 数	-	-
北海道	-	-
青森県	-	-
岩手県	-	-
宮城県	-	-
秋田県	-	-
山形県	-	-
福島県	-	-
茨城県	-	-
栃木県	-	-
群馬県	-	-
埼玉県	-	-
千葉県	-	-
東京都	-	-
神奈川県	-	-
新潟県	-	-
富山県	-	-
石川県	-	-
福井県	-	-
山梨県	-	-
長野県	-	-
岐阜県	-	-
静岡県	-	-
愛知県	-	-
三重県	-	-
滋賀県	-	-
京都府	-	-
大阪府	-	-
兵庫県	-	-
奈良県	-	-
和歌山県	-	-
鳥取県	-	-
島根県	-	-
岡山県	-	-
広島県	-	-
山口県	-	-
徳島県	-	-
香川県	-	-
愛媛県	-	-
高知県	-	-
福岡県	-	-
佐賀県	-	-
長崎県	-	-
熊本県	-	-
大分県	-	-
宮崎県	-	-
鹿児島県	-	-
沖縄県	-	-

感染症週報 第8巻 第32号 2006年8月25日発行
 発行：国立感染症研究所
 厚生労働省健康局結核感染症課
 厚生労働省大臣官房統計情報部
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
 T E L : 03-5285-1111
 F A X : 03-5285-1129
 U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
 < 国立感染症研究所 感染症情報センター >
<http://www.mhlw.go.jp/>
 < 厚生労働省 >
<http://www.forth.go.jp/>
 < 旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所) >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。